

平成 18 年度事業報告

18 年度は新介護保険法の施行によってスタートしました。内容は周知のとおり、 予防重視型システムへの転換、 施設給付費等の見直し、 サービスの質の向上等が改正の大きな柱となっております。

これらをむさしのに標準を照らし合わせてみると、 に伴い地域課においては予防給付を鑑みた介護予防体操、 富士見市中央地域包括支援センターからの受託業務を実施、 に伴い生活課においては居住費・食費等の利用料変更による重要事項説明書を用いた本人、 ご家族への詳細の説明、 社会福祉法人による利用者負担軽減措置の検討、 に伴い全課共通にて介護サービスの情報公開等を実施してきました。

このような状況の中、 経営の安定化には効率的な事業費の執行を、 運営の円滑化には質の高いサービスを提供するために各課、 下記の事業を実施してきましたのでここに報告いたします。

法人本部

1 県監査

(1) 平成18年9月21日 法人運営状況、施設運営管理、処遇、財務管理、介護サービス事業運営状況について施設指導監査を受けました。重要事項については、特に指摘事項はなりませんでした。個々の指摘事項については、順次是正に努めました。

2 理事会・評議員会・監事監査

| | 理事会 | 評議員会 | 監事監査 | 実施時期 | 議案 |
|-----|-----|------|------|------|--|
| | | | | 5/22 | ・ 平成17年度事業報告・決算報告に対する監査 |
| 第1回 | | | | 5/25 | ・ 平成17年度事業報告及び決算報告 |
| 第2回 | | | | 7/21 | ・ 特別養護老人ホームむさしの利用者預かり金等取扱規程 ・ 社会福祉法人ふじみ野福祉会役員等の報酬等に関する規程の一部改正 ・ 社会福祉法人ふじみ野福祉会評議員の選任 |
| 第3回 | | | | 8/25 | ・ 特別養護老人ホームむさしの増築(増床)計画 ・ 社会福祉法人ふじみ野福祉会就業規則改正 ・ 社会福祉法人ふじみ野福祉会パートタイマー・非常勤職員等の就業規則改正 ・ 社会福祉法人ふじみ野福祉会育児休業等に関する規則改正 ・ 社会福祉法人ふじみ野福祉会介護休業等に関する規則改正 |

| | | | | |
|-----|--|--|-------|---|
| | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉法人ふじみ野福祉会再雇用職員就業規則 ・ 社会福祉法人ふじみ野福祉会公益通報対応規程 ・ 指定介護老人施設むさしの（特別養護老人ホーム）利用契約書・重要事項説明書一部改正 |
| 第4回 | | | 11/10 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成18年度ふじみ野福祉会収支予算書の補正 ・ 社会福祉法人ふじみ野福祉会給与・退職金規程の一部改正 ・ 社会福祉法人ふじみ野福祉会就業規則の一部改正 ・ 社会福祉法人ふじみ野福祉会パートタイマー・非常勤職員等の就業規則の一部改正 |
| 第5回 | | | 1/24 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会福祉法人ふじみ野福祉会利用者の権利擁護規程の改正 |
| 第6回 | | | 3/23 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成18年度ふじみ野福祉会収支補正予算 ・ 平成19年度ふじみ野福祉会事業計画及び平成19年度ふじみ野福祉会収支予算 ・ 社会福祉法人ふじみ野福祉会就業規則の一部改正 ・ 社会福祉法人ふじみ野福祉会パートタイマー・非常勤職員等の就業規則の一部改正 ・ 社会福祉法人ふじみ野福祉会安全衛生推進規程 |

管理課

1 経理事務の適正化

- (1) コンピューターネットワークを有効に利用し、埼玉りそな銀行の資金管理サービスが軌道にのり、介護報酬事務、施設会計処理を効率的に行い、また郵便局の自動振込システムを利用し、入所及びデイサービス利用者はすべて処理し、ショート利用者も随時自動振込の移行に努めました。
- (2) 職員の自主性を活かした会議・委員会を行いました。委員会は毎月開催することができませんでしたので、今年度は努力していきたいと思っております。記録はイントラネットを活用し、早期に入力し、全職員がどのパソコンからも閲覧ができ、職員の連携も密になりました。

会議

| | | | | | | | | |
|-------------|-------|------|------|------|------|------|-------|-------|
| 課長会議 | 4/5 | 5/4 | 6/6 | 7/5 | 8/3 | 9/16 | 10/4 | 10/26 |
| | 12/22 | 2/2 | 3/7 | | | | | |
| 主任会議 | 4/19 | 5/10 | 5/25 | 6/14 | 8/16 | 9/14 | 10/11 | 11/8 |
| | 12/15 | 2/8 | 3/19 | | | | | |
| 2階フロア 会議 | 4/14 | 5/2 | 6/5 | 7/4 | 8/8 | 9/25 | 10/24 | 11/7 |
| | 1/9 | 2/6 | 3/6 | | | | | |

| | | | | | | | | |
|-------------|-------|------|------|------|------|-------|------|-------|
| 3階フロア 会議 | 5/12 | 6/7 | 7/18 | 8/9 | 9/6 | 10/17 | 11/8 | 12/19 |
| | 1/12 | 2/7 | 3/7 | 3/8 | | | | |
| ダイフロア 会議 | 4/7 | 4/21 | 5/16 | 6/2 | 6/19 | 6/23 | 7/21 | 9/7 |
| | 10/13 | 12/7 | 1/19 | 2/15 | | | | |
| リーダー会議 | 4/14 | 5/25 | 6/9 | 7/14 | 8/11 | 11/10 | 12/8 | |

委員会

| | | | | | |
|-------|------|------|-------|-------|-------|
| 安全委員会 | 5/14 | 8/16 | 10/9 | 12/13 | 2/19 |
| 食事委員会 | 7/7 | 9/26 | 10/18 | | |
| 入浴委員会 | 5/24 | 7/26 | 9/27 | 11/21 | |
| 排泄委員会 | 4/6 | 5/10 | 7/12 | 9/13 | 11/27 |
| 整容委員会 | 5/17 | 7/19 | 9/20 | 11/14 | |
| 防災委員会 | 5/5 | 6/2 | 7/7 | | |
| 広報委員会 | 5/29 | 6/28 | 10/20 | | |

- ・ 会議においてはほぼ予定通りに開催することができましたが、委員会については委員の招集が難しく予定通りに開催することができませんでした。が日常業務を通して委員間の連絡は密にし、サービス提供に影響がないように努めてきました。来年度については予定通りに実施できるように努力します。

2 介護サービス情報公開

2月19日・20日に特養・短期・デイ・ヘルパー・居宅の各事業所の介護サービスの情報公開を調査員立会いで行いました。調査結果については介護サービス情報公開センターに報告され、埼玉県介護サービス情報センターのホームページで公開しています。この情報公開の制度は18年4月に利用者と事業所との双方に必要な情報提供のしくみとして創設されたもので、毎年、実施していきます。

3 施設管理の効率化

施設の総合維持管理については、委託会社を中心に毎月年間計画に沿って行いました。管理上問題が生じた時は、事の大小問わず即時委託会社と連絡を取り、その都度解決に努めました。

| 月 | 実施内容 |
|---|--|
| 4 | 定期床面清掃・害虫駆除点検・エレベーター・小荷物専用昇降機点検・定期設備点検 グリーストラップ清掃・脱臭器・浄化槽点検 |
| 5 | 全停電年次点検・害虫駆除点検・定期設備点検・空調点検・・フィルター清掃 エレベーター・小荷物専用昇降機点検・浄化槽点検 |
| 6 | 定期清掃・エレベーター・小荷物専用昇降機点検・害虫駆除点検・定期ガラス清掃 |

| | |
|----|--|
| | 巡回設備点検・厨房給気フィルター交換・脱臭器点検・グリーストラップ清掃・浄化槽点検 |
| 7 | 害虫駆除点検・エレベーター・小荷物専用昇降機点検・設備巡回点検・厨房夜間清掃 浄化槽点検 |
| 8 | 害虫駆除点検・エレベーター・小荷物専用昇降機点検・上水・井戸貯水槽清掃・水質検査 空調フィルター点検清掃・巡回点検・植栽管理・グリーストラップ清掃・消防点検 エレベーター・小荷物専用昇降機点検・浄化槽点検 |
| 9 | エレベーター・小荷物専用昇降機点検・害虫駆除点検・グリーストラップ清掃 外壁ペントキャップ清掃・定期設備巡回・ろ過機点検・風呂水レジオネラ取水・浄化槽点検 |
| 10 | エレベーター・小荷物専用昇降機点検・定期床面清掃・害虫駆除点検・定期設備点検 グリーストラップ清掃・脱臭器点検・厨房給気フィルター清掃・浄化槽点検 |
| 11 | エレベーター・小荷物専用昇降機点検・害虫駆除点検・空調設備フィルター清掃 定期巡回点検・植栽管理・グリーストラップ清掃・厨房夜間清掃・浄化槽点検 |
| 12 | 窓ガラス・樋清掃・定期床面清掃・害虫駆除点検・エレベーター・小荷物専用昇降機点検 巡回点検・グリーストラップ清掃・脱臭器点検・落ち葉清掃・浄化槽点検 |
| 1 | エレベーター・小荷物専用昇降機点検・簡易専用水道検査・害虫駆除点検・浄化槽点検 巡回設備点検・グリーストラップ清掃・ |
| 2 | エレベーター・小荷物専用昇降機点検・害虫駆除点検・定期床面清掃・巡回設備点検 落ち葉清掃・厨房給気フィルター交換・消防設備点検・全熱交換機点検・浄化槽点検 空調フィルター清掃 |
| 3 | 害虫駆除点検・エレベーター・小荷物専用昇降機点検・室外機点検・グリーストラップ清掃 ろ過機点検・設備巡回点検・自動ドア点検・建築設備定期検査 |

4 職員の研修の充実

職員の資質向上、情報収集のため関係団体が主催するいろいろな研修に積極的に申込み、多くの職員に参加していただきました。または内部研修も研修担当を中心に実施しました。

外部研修

| 研修日 | 研修内容 | 参加者 |
|------------------|----------------------|----------|
| 18.4.20 | 介護支援専門員等口腔ケア研修 | 下田・日置 |
| 18.4.24 | ユニットケア小規模多機能管理者向け講演会 | 柳川・小山 |
| 18.5.19 | 保健衛生研究会研修会 | 市川・柳川・川崎 |
| 18.6.7 | 雇用管理責任者講習会 | 嶋田 |
| 18.6.7 | 感染症に関する研修 | 小山 |
| 18.6.19・20・26・27 | 社協新任職員研修 | 小林・瀬下・島村 |
| 18.6.23・30 | ボランティアコーディネーター新任研修 | 柳川 |

| | | |
|---------------------------|------------------------|-----------------|
| 18.6.23 | 給食研究会研修会 | 金子 |
| 18.7.19 | 接遇研修 | 中村 |
| 18.7.24・31.9.4 10.2・16 | スーパービジョン研修 | 小山 |
| 18.7.25・26 | 社協中堅職員研修 | 日置 |
| 18.8.9・10 | 社協監督者研修 | 古橋 |
| 18.8.11 | 情報管理研修 | 市川 |
| 18.8.30 | 青年部会研修 | 嶋田 |
| 18.8.31 | 医療と介護の連携に関する研修会 | 吉江 |
| 18.9.7 | 音楽レクリエーション研修 | 高野・伊藤 |
| 18.9.9 | 埼玉認知症懇話会 | 川崎・市川・柳川 |
| 18.9.8・11 | 社協監督者研修 | 日置 |
| 18.9.11・12 | 全国社会福祉施設経営者研修 | 吉江 |
| 18.9.12・13 | 社協監督者研修 | 西島 |
| 18.9.19 | 神経難病患者のくらしを考える研修 | 清水知 |
| 18.9.26 | 財務管理研修 | 森川 |
| 18.10.3 | 広報誌研修 | 足立 |
| 18.10.5・6 | 社協管理者研修 | 嶋田 |
| 18.10.5・6 | 社会福祉トップセミナー | 吉江 |
| 18.10.13 | 施設内感染対策に関する講演会 | 中村 |
| 18.10.13 | 物忘れ相談医講習会 | 富原・川崎・ 古橋・日置 |
| 18.10.16 | ボランティアコーディネーター研修 | 市川 |
| 18.10.17 | 尊厳を実現するネットワークの力 シンポジウム | 吉江・富原 |
| 18.10.24・25・26・27 | 介護福祉士養成実習施設実習指導者特別研修会 | 藤本 |
| 18.10.28・29 | 通所事業合宿セミナー | 富原 |
| 18.10.29 | 介護予防における口腔ケア研修 | 日置 |
| 18.10.29 | 褥瘡ケアセミナー | 山口 |
| 18.10.30 | 高齢者福祉施設におけるチームケアを考える研修 | 西島 |
| 18.11.2 | 埼玉県衛生研究所主催研修 | 内間 |
| 18.11.2 | 人事・労務管理研修 | 嶋田 |
| 18.11.6・7 | 財務管理講座 | 吉江 |
| 18.11.8 | 肢体不自由者のための福祉用具研修 | 柳川 |
| 18.11.15 | 日本福祉用具供給協会研修 | 小山 |

| | | |
|--------------------|---------------------------|-------------|
| 18.11.17・30 | 高次脳機能障害研修 | 川崎 |
| 18.11.27 | 防災に関する研修 | 嶋田 |
| 18.12.5 | 退職手当共済制度実務研修 | 清水義 |
| 18.12.6 | ボランティアのための失語症の理解と援助に向けた講座 | 柳川・市川 |
| 18.12.6・8・15・25・26 | 社会福祉援助技術研修 | 柳川 |
| 18.12.15・21 | 成年後見人制度に関する勉強会 | 市川・柳川・川崎・嶋田 |
| 18.12.20 | 介護事業者支援セミナー | 細川・岡野 |
| 19.1.17 | 福祉用具研修会 | 池田 |
| 19.2.5・6 | 監事監査適正な事業経営セミナー | 吉江・森川 |
| 19.2.19 | 老人性認知症疾患センター研修会 | 下田 |
| 19.2.21 | 福祉関係者のための成年後見制度活用講座 | 古橋・吉江 |
| 19.2.28 | 苦情解決セミナー | 池田 |
| 19.3.14 | 介護事業者支援セミナー | 吉江・小山 |
| 19.3.17 | 介護予防事業研修会 | 日置 |

内部研修

| 研修日 | 研修内容 | 参加人数 |
|------------------------|---------------------------------|------|
| 18.5.15・16・18 | 新人職員研修 | 11名 |
| 18.5.10・12・13・22・23・26 | 全体職員研修 (医務・リハビリ・栄養課・生活課・地域課) | 82名 |
| 18.6.12・19・26 | アクティビティ研修 | 34名 |
| 18.7.7・8.10・9.15 | 応急手当研修(心肺蘇生) | 32名 |
| 18.10.6 | 高齢者保健福祉研修 | 10名 |
| 18.10.11 | 医務研修 | 5名 |

5 防災対策の強化・地域防災訓練との連携

- (1) 平成18年度は、利用者の生命と身体の安全を最優先に不測の災害に対応するよう毎月計画を立て、緊急に備え心肺蘇生の訓練については、数回行い多くの職員が習得でき、消火、通報、避難、応急訓練を毎月計画とおり実施できました。

| | 実施日 | 訓練内容 | 参加者 |
|----|----------|-------------------|---------------|
| 1 | 18.4.25 | 夜間訓練 | 職員・利用者 30名 |
| 2 | 18.5.15 | 消火訓練(消火器) 煙体験 | 職員・利用者 36名 |
| 3 | 18.6.12 | 消火、避難、通報訓練 | 職員・利用者 80名 |
| 4 | 18.7.7 | 応急訓練(心肺蘇生) | 職員 10名 |
| 5 | 18.8.10 | 応急訓練(心肺蘇生) | 職員 10名 |
| 6 | 18.8.17 | 通報訓練(火災報知機・ケアロック) | 職員 10名 |
| 7 | 18.8.18 | 通報訓練(火災通報専用機) | 職員 5名 |
| 8 | 18.9.15 | 応急訓練(心肺蘇生) | 職員 12名 |
| 9 | 18.10.1 | 地域合同防災訓練 | 職員・地域の皆さん 30名 |
| 10 | 18.11.22 | 消火、避難、通報訓練 | 職員・利用者 50名 |
| 11 | 19.1.30 | 夜間訓練 | 職員・利用者 30名 |
| 12 | 19.2.27 | 応急訓練(三角巾) | 職員 10名 |

(2) 地域合同防災訓練については、南畑第5町会と災害時相互援助協定に基づき地域の皆さん参加で地域合同防災訓練を実施しました。

内容については10月1日(日)AM10:00から1階に災害対策本部を設置し、第5町会の皆さんが避難されている場所まで迎えに行き、当施設に避難され体調確認後地域防災ビデオを鑑賞し、当施設に設置されている消火栓について説明後駐車場にて消火栓及び消火器による消火訓練を南畑第5町会会長始め地域の皆さん36名と理事長、施設長始め職員13名と多く参加いただき実施できました。訓練後今後の方策を兼ねて懇親会を行いました。

6 安全衛生活動の推薦

職員の安全衛生に関し、健康診断、インフルエンザ予防接種、検便検査を定期的に行いました。ノロウイルス、感染症胃腸炎が流行しましたが当施設では産業医を迎え、委員会を開催して検討し早めに対応しましたので大きな問題も無かったです。また職員及び利用者の家族等に対する手洗い、うがい等を徹底的に励行しました。

7 相談・苦情の対応

オンブズマンによる相談を受付けて、利用者の権利擁護を中心に施設運営へ助言をいただき、生活の向上を図りました。

8 情報公開

事業計画、事業報告等の情報公開を施設窓口で行い、施設のホームページを利用し、利用者、ご家族、関係機関への情報提供を行いました。

施設内での行事、報告等を連載した広報誌を年4回発行しました。

生活課

生活課における全体目標において、明るく家庭的な雰囲気の中、各セクションが個々の心身の状況、生活状況におけるサービス提供に取り組んできました。日々、相談援助、日常生活における直接・間接介助、機能訓練、健康管理面に力を注ぎ、楽しみや思い出作り、趣味活動である余暇支援への取り組みが出来ない状況が続きました。来年度には5年目に入り、生活課の事業の総点検を行い提供するサービスの質の向上、充実したむさしのになるように取り組んでいきます。以下の事業の総括、課題を報告していきます。

介護

1 サービスの見直し、充実から余暇支援

年間を通して、各セクションが試行錯誤し、連携してサービスの見直しをしていきました。日常生活における介護・介助が中心になり、日々時間におわれてしまい余暇支援への取り組みが不十分になってしまいました。同じ状況が続くことがないように、反省点・課題を確認していき報告を通して次へのステップとし、余暇支援の充実につなげていきます。

2 生きたケアプランの作成から利用者、ケース担当の信頼関係の築きへ

介護支援専門員を始め、ユニットリーダー、ケース担当が利用者の状況・状態・ニーズを把握し利用者との身近な関わりの中、ケアプラン作成・ケースカンファレンスに取り組みました。また1年に2回の見直し、評価をすることでその方の生活リズム・気持ちの大切さ、同じ立場の考え、2週間のまとめ記録を振り返り、個別ケアへの作成にあたりました。ケース担当においては、介護業務の時間、職員の勤務体系より夜勤明け（～9：50）時に居室清掃に取り組みました。

ケアプラン作成について

個々の生活状況の把握を行い、利用者及び家族の生活に対する意向を確認しその方に合う、総合的な援助方針にて日常生活におけるサービス提供を行いました。ご家族に意向を確認できず利用者の生活全般の解決すべき課題（ニーズ）を重点にして作成にあたるがありましたので、作成時はご家族、利用者の希望、生活における課題、問題点を確認し施設サービス計画の作成に取り組んでいきます。

計画については、個々により利用者の課題（ニーズ）がありますが、第1に利用者の希望（同姓介助、他）を確認、第2に生活上、優先的にかかわる問題点、課題を上げていき、食事、リハビリ、身体拘束について重視していきました。

作成後の引継ぎについては、各セクション、利用者担当からの引継ぎをしましたが、統一した介護としては不十分なことが多くみられました。施設サービス計画書を元に日々、個別ケアへのサービス提供に取り組んでいきます。

3 親しみのある居住空間の環境作りへ

個々のプライバシーに配慮した個室空間では一人一人がゆったりと落ちついて過ごして頂くこと

ができました。リビングを設置することにより利用者同士の交流、クラブ活動の場、他にもご家族との面会時に談話スペースとしてつなぐ場所として活用することができました。課題として、ユニット内でのつなぐ場の設置、必要物品の購入を考え、自由に過ごせる空間をユニットリーダー、ケース担当による環境作りに取り組んでいきます。

ユニット経費について、担当リーダーがユニット経費年間10万円内で個性ある環境、ユニットを展開していきました。

ユニット経費使用状況より

| ユニット | 2階ふじ ユニット | 2階ゆり ユニット | 2階きく ユニット | 3階きり ユニット | 3階さくら ユニット | 3階もみじ ユニット |
|------|---|---|--|--------------------------------|--|--|
| 購入品 | パズル 観葉植物 植木 芳香剤 花瓶 テーブルク ロス 装飾品 その他 | 置物 のれん 植物 CD 芳香剤 花瓶 生花 その他 | ホワイトボ ード 鈴 延長コード アルバム テーブルク ロス 芳香剤 その他 | アルバム すだれ 造花 風鈴 その他 | アルバム CD 花 週刊誌(年) 女性自身 その他 | アルバム のれん 置物 野鳥電波掛 け時計 その他 |
| 計 | 26,500円 | 31,700円 | 30,700円 | 6,400円 | 22,900円 | 14,485円 |

年間諸行事

| 実施期間 | 行事名 | 内容 | 実施ユニット | 備考 |
|------|--------------|---|------------------------|-----------------------------------|
| 5/5 | 端午の節句 菖蒲湯 | 節句にかかわる、兜・こいのぼり を前にユニットにて写真撮影。 太鼓観賞(ボランティアにより) 入浴浴槽に菖蒲を使用する。 | 2階各ユニット 3階各ユニット | ユニット食堂 ひのき、カトレ ア、ロベリヤ機 器 |
| | 行事食 | 鮭いくら散らし寿司 澄まし汁(花麩) 高野豆腐の含め煮 ブロッコリーサラダ いちご 柏餅 | | |
| 5/16 | 外出 | 外出にてコーヒー、ケーキ、軽食 を楽しむ | ふじ | 花 (喫茶店) |
| 5/24 | 外出 | 外出し買い物を楽しむ | さくら | ベルク |
| 5/26 | 外出 | 外出し買い物を楽しむ | もみじ | ベルク |
| 5/29 | 外出 | 外出し買い物を楽しむ | きり | ヤオコー |
| 5/29 | 外出 | 近隣公園にて散策をする | ゆり | 難波田城公園 |
| 5/30 | 外出 | 嗜好品を選び、外食を楽しむ | ふじ | ジョナサン |

| | | | | |
|------|--------------|---|--------------------|-----------|
| 5/31 | 外出 | 外出にてコーヒー、ケーキ、軽食を楽しむ | きく | はな（喫茶店） |
| 6/5 | ミニ運動会 | 入場門や飾り付けの中、運動会を楽しむ 種目（体操、ボールゲーム、まんじゅう食い競争） | 2階合同 3階合同 | 各ホール |
| 6/7 | 外出 | 外出し買い物を楽しむ | きり | ヤオコー |
| 6/12 | 外出 | 外出し買い物を楽しむ | ゆり | しまむら |
| 6/13 | 外出 | 外出し買い物を楽しむ | さくら | セキチュー |
| 6/15 | 外出 | 嗜好品を選び、外食を楽しむ | きく | かっぱ寿司 |
| 6/22 | 外出 | 外出し買い物を楽しむ （依頼品の購入あり） | もみじ | ベルク |
| 7/7 | 七夕 | 七夕の準備をし、短冊に利用者、職員が願い事を書き竹に飾り付けをしました。2階フルーツポンチ作り 3階職員によるハンドベル演奏を観賞 | 2階各ユニット 3階各ユニット | 各ユニット、ホール |
| | 行事食 | 七夕散し寿司 澄まし汁 うなぎのかぶら蒸し 野菜炊き合わせ 甘夏みかん 抹茶ゼリー | | |
| 7/29 | 納涼祭 （夏祭り） | 通所・入所利用者・家族・地域・利用者が納涼祭を通して地域交流をはかり夏の雰囲気を感じていただく。 盆踊り 太鼓 花笠音頭 チンドン（地域ボランティアにより） | 合同 | 第1駐車場 |
| | 行事食 | やきとり やきそば 散らし寿司 たこ焼き 枝豆 わたあめ フランクフルト 酒・ジュース類 | | |
| 9/16 | 敬老会 | 長寿のお祝いの言葉、プレゼントを配り、ボランティアによる演芸、南京玉すだれの観賞にて敬老の日を過ごしていただく。 | 2階各ユニット 3階各ユニット | 各ユニット、ホール |
| | 行事食 | まつたけご飯 澄まし汁（豆腐） 刺身盛り合わせ 盛り合わせサラダ 茶碗蒸 フルーツポンチ | | |

| | | | | |
|-------|--------|---|----------------------------|--------------------|
| 10月 | 鍋行事 | 多種の具材を使用し、出汁にておじやを作り昼食を楽しむ | 各ユニット | 各ユニットキッチン |
| 11/8 | やきいも | さつまいもを取り寄せ、1階テラスにてやきいもを楽しむ | 合同 | 1階テラス |
| 12/13 | もちつき | 新年を迎える行事として、昔馴染みの杵、臼を見学、参加をしてもちつきを行う。各ユニットの食堂にて家族とお餅を楽しむ。 | 2階・3階 ホール | 2階、3階各 ユニット |
| | 行事 | 甘酒 みかん お餅 からみ きなこ あんこ 磯辺 | | |
| 12/25 | クリスマス会 | 2階・3階、クリスマスの飾り付けをして、サンタ、トナカイの衣装にてプレゼントを手渡していく。午後、ピアノボランティアの演奏を観賞する。おやつ時にケーキバイキングにてクリスマスケーキを楽しむ。 | 2階各 ユニット 3階各 ユニット | 2階ホール 3階ホール |
| | 行事食 | 鮭いくら散らし寿司 澄まし汁(花麩) あなごのかぶら蒸し 焼き豆腐の味噌あんかけ いちご | | |
| 12/31 | 大晦日 | 年越してんぷらそば | | |
| 1/1 | 元旦 | お屠蘇 おせち料理 お雑煮 | | |
| 1/13 | 新年会 | 2階、絵馬に目標、抱負を記入してユニットに飾り付けをする。 3階、副笑い、カルタにて新年会を楽しむ 午後、ボランティアによる舞妓、音楽による観賞 | 2階各 ユニット 3階各 ユニット | 2階ホール 3階ホール |
| | 行事食 | 五目炊き込み御飯、赤飯 澄まし汁(豆腐) 刺身盛り合わせ 盛り合わせサラダ 茶碗蒸 フルーツポンチ フルーツ盛り合わせ | | |
| 2/3 | 節分 | 職員の鬼の着ぐるみによる豆まきにて厄払いをする。鬼とともに記念撮影をする。 | 2階各ユニット 3階各ユニット | 2階各ユニット 3階各ユニット |
| | 行事食 | 赤飯 澄まし汁(花麩) てんぷら かぶのかおり和え ひじきの煮物 | | |
| 3/3 | ひな祭り | 各ユニット、雛人形前にて記念撮影を行い、行事食を楽しむ | 2階各ユニット 3階各ユニット | 2階各ユニット 3階各ユニット |

| | | |
|--|-----|--|
| | 行事食 | 五目散らし寿司 澄まし汁 たらのかぶら蒸し 菜の花と湯葉の和え物 フルーツカクテル 雛あられ |
|--|-----|--|

4 会議、委員会

会議、委員会として、2階、3階の職員より1～2名の委員会を担当し、2ヶ月に1回の会議を開催しました。業務内容及び提供するサービス内容、企画を通して引継ぎをし、介護業務におけるサービスの統一を心掛けていきました。

| 会議名 | 開催日 | 委員会名 | 開催日 |
|--------|----------|-------|----------|
| 課長会議 | 第1水曜 | 排泄委員会 | 奇数月・第2水曜 |
| 主任会議 | 第2・4水曜 | 整容委員会 | 奇数月・第3水曜 |
| リーダー会議 | 第2金曜 | 入浴委員会 | 奇数月・第4水曜 |
| ワーカー会議 | 第1火曜(2階) | 安全委員会 | 偶数月・第2水曜 |
| | 第1水曜(3階) | 食事委員会 | 偶数月・第3水曜 |
| ケース会議 | 毎週木曜 | 広報委員会 | 偶数月・第4水曜 |
| 防災会議 | 第1金曜 | | |

各委員会で実施した内容の総括は下記の通りです。

(1) 排泄委員会

総括として

「羞恥心への配慮を課題とし、精神的、身体的負担の軽減に努めた個別的ケアの実践」を目指して取り組みをしていきました。活動内容を報告します。

羞恥心への配慮について

- ・高品質の紙おむつのメリットを生かし、排泄介助方法を見直しました。具体的には利用者の排泄パターンに合わせたパットの交換をすることにより、過剰な排泄介助を避け、羞恥心や精神的負担を軽減に取り組みました。
- ・テーパーパンツを使用することで、紙おむつからパンツ・パットの使用に変更となり、おむつの使用により不快、違和感のある利用者への精神的負担、軽減の緩和になるように個々ケアに取り組みました。

個別ケアについて

- ・個人の平均的な尿量を時間毎に測定し、10種類の製品の中から尿量のおうパットを選び個別ケアに対応し、尿量の多い方、トイレまで間に合わない方の失禁回数の減少、紙おむつが皮膚に直接当たる面積の縮小による、皮膚疾患の減少、精神的負担や不安を軽減できるように取り組みました。

a)尿量測定：2日間下記表のように個別にパットの重さを測定し、平均尿量を図る。

| 名前 | 9時～13時 | | 13時～16時 | | 16時～22時 | | 22時～4時 | | 4時～9時 | |
|----|--------|-------|---------|-------|---------|-------|--------|-------|-------|-------|
| | 23日 | 24日 | 23日 | 24日 | 23日 | 24日 | 23日 | 24日 | 23日 | 24日 |
| A | 250cc | 350cc | 300cc | 400cc | 250cc | 300cc | 300cc | 450cc | 200cc | 250cc |
| B | 300cc | 450cc | 400cc | 500cc | 550cc | 400cc | 800cc | 900cc | 300cc | 350cc |
| C | 200cc | 250cc | 500cc | 450cc | 400cc | 550cc | 500cc | 600cc | 400cc | 380cc |
| D | 150cc | 240cc | 350cc | 300cc | 450cc | 400cc | 400cc | 300cc | 450cc | 400cc |

b)パットの決定：上記平均尿量の許容量が収まるパットを選択、1週間試行期間をおき、決定していく。

| 名前 | 9時～16時 | 16時～22時 | 22時～4時 | 4時～9時 |
|----|--------|---------|--------|-------|
| A | プラス | ノーマル | スーパー | プラス |
| B | スーパー | スーパー | マキシ | エクストラ |
| C | プラス | スーパー | スーパー | エクストラ |
| D | プラス | プラス | エクストラ | エクストラ |

皮膚疾患について

- 品質の高い紙オムツを使用することにより、臀部の状態の改善及び快適な生活に取り組みました。対応方法として皮膚疾患がみられる利用者の排泄回数を見直し、清潔保持することで、改善を目指しました。3人の改善がみられましたが、5人の皮膚疾患がみられる利用者への処遇検討を来年度の課題にしていきます。また、製品の変更により、臀部発赤や尿による、肌へのトラブルが改善傾向になりました。

職員の意識調査

- 紙おむつ業者(アドバイザー)の協力でアンケートを行いました。内容、結果は下記のとおりです。

質問

1. 利用者の就寝中のオムツ交換は行わずぐっすりお休みいただいている。
2. その方の失禁状態に合わせ最適なオムツを選択している。
3. オムツ交換は定時交換ではなく、随時交換を行っている。
4. 排泄ケアの知識を十分に身につけている。
5. 利用者の肌トラブルが全体的に改善されていると感じる。
6. 利用者の声、希望に耳を傾けている。
7. 下剤に頼らず、その方が自然に排便できる取り組みをしている。

結果より

- 1～6については、昨年度よりも良くなっていると回答の職員数が多く、7については改善されて

いるとは思えないとの回答が多く見られました。内容としては、身体的理由からトイレでの排便が難しく、腹圧による、自然排便が困難な利用者が去年より増えた為と考えます。また、昨年度実施していた、食物繊維での自然排便は効果が見られず、下剤服用者が増えてしまい、来年度の課題にしていきます。

排泄委員として介護業務への見直し

- ・紙おむつの発注、在庫の管理を各フロアごとに実施しました。紙おむつの種類が多くありますので在庫管理を徹底し、過不足の無いよう配慮しました。
- ・在庫管理のため、倉庫内の整理整頓を心掛けました。
- ・尿量測定後、個人にあったパットを選択、使用していきました。また職員の意見をまとめ、尿量測定だけではなく、個人の体型、排尿パターンに合わせ、個々の状況にあうパットを選択しました。
- ・紙おむつ業者と連絡を取りながら、使用方法、排泄介助における困難処遇を含め、排泄の向上に取り組みました。

年間を通して

紙おむつ(テーナ製品)の導入で試行錯誤の一年でした。上半期はテナ製品に不慣れであった為、失禁も多く、利用者に負担がかかってしまった部分もありましたが、下半期はテナ製品を理解し、目標で掲げた、「羞恥心への配慮」「精神的負担の軽減」に取り組みました。課題としては排便時に失禁が多く、利用者の精神的負担は大きかったと考えます。下剤服用後は従来の紙おむつを使用することで、不快の軽減、自然排便に取り組み、失禁回数の減少がみられましたが、羞恥心の配慮から、排泄回数を見直し、排泄時に衣類交換をする利用者への負担になっていたのではと考えます。来年度は排尿だけではなく、排便にも着目し、個々の排便コントロールを実践し、さらに排泄における個別ケアを考えていきます。また、初心に戻り、トイレの清潔保持、感染予防の手指消毒の徹底に取り組んでいきます。

(2) 整容委員会

総括として

居住空間におけるリネン交換では、フィットシート導入により業務の効率化、短時間での多床の交換が出来るようになりました。環境整備としては、介護業務に時間を要してしまい、時間の確保が出来ない事から週間プログラムに沿った整備が出来ない状況が続きました。今後の課題も含めて、短時間での環境整備、週間プログラム、利用者担当が積極的に居住空間の環境整備を心掛けていき、清潔、不潔(感染症)を再確認し不潔状況が続かないように、介護業務の中で、気付いたらすぐに取り組みが出来るようにしていきます。

(3) 入浴委員会

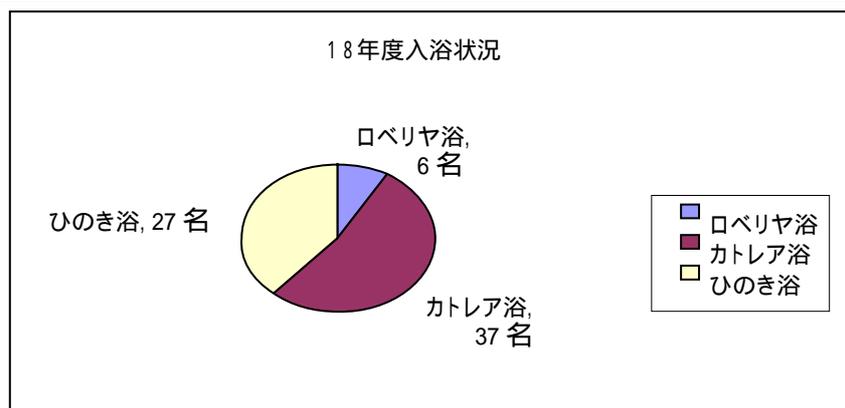
総括として

目標に掲げた安楽な入浴について、環境整備、備品等の購入については確認し、安楽に入浴が出来るように取り組みました。利用者の状況、状態に合う入浴サービスを行ってききましたが、利用者から見た視点、目標への取り組みにおけるサービス提供が出来ない状況が続きました。週2回の入浴サービス提供、また体調不良時には全身清拭、衣類交換をおこない清潔保持を行いました。

2,3階の週間入浴表について

2,3階におけるひのき浴(火曜日・金曜日) カトリア浴(水曜日・土曜日)ロベリヤ浴(月曜日・木曜日)は各フロアーにて人数調整を行い週2回の入浴サービス提供をしていきました。利用者の状態変化・短期入所者への利用状況からひのき浴・カトリア浴に偏ることがあり2階、3階と連携をしていきました。また土曜日のカトリア浴は職員の人員状況から、金曜日に入浴を行い週6日から週5日にて入浴日の業務調整をしました。課題としては、職員の人員調整、器具類の点検、業務効率を検討し、入浴サービス提供における満足感、介護の質の向上を考え、楽しみである入浴に取り組んでいきます。

| | 月曜日・木曜日 (ロベリヤ・カトリア) | 火曜日・金曜日 (ひのき) | 水曜日・土曜日 (カトリア) |
|--------|------------------------|------------------|-------------------|
| 2階・午前 | ロベリヤ2名(合同) | ひのき10名 | カトリア6名 |
| 2階・午後 | カトリア6名 | ひのき6名 | カトリア5名 |
| 3階・午前 | ロベリヤ4名(合同) | ひのき5名 | カトリア6名 |
| 3階・午後 | カトリア7名 | ひのき6名 | カトリア7名 |
| 計(70名) | 19名 | 27名 | 24名 |



考察より、利用者のADL状況、状態変化によりひのき浴からカトリア浴の増加傾向にあります。今後の課題として、利用者の身体状況、残存維持、希望・安楽・安全を心掛け、目標への取り組みが出来るように取り組んでいきます。

(4) 安全委員会

総括として

目標に掲げた「身体拘束ゼロの継続」について、日常生活の中で、安心・安全に過ごせる空間、時間を提供しセーフティマネジメントとして離床センサー、センサークッション使用者への再確認をすることで、安全を第一に、行動状況に応じて見直しをしていきました。また日々のヒヤリハット報告の確認、引継ぎを通して職員が事故予防に取り組めるように考えていきましたが前年度より増加がみられました。1年間のヒヤリハット報告をまとめ、今後の課題として生かせるようにしていきます。

ヒヤリハット報告より

月別状況より

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|
| 件数 | 28 | 18 | 20 | 20 | 12 | 11 | 8 | 25 | 12 | 20 | 21 | 18 | 213 |

考察

月別の合計より、昨年より年間30件の増加がありました。はじめにユニットケアにおける特徴として生活面での移動距離の短縮、利用者間、利用者と職員のコミュニケーションがとれることにより、行動状況の把握ができ事故予防が減少傾向に向かうと考えられます。増加した原因として 職員の人員状況 日々の介護業務が多忙な状況 利用者への関わりの中で行動把握が出来ていない事 余暇支援の減少が要因と考えました。課題として、日常生活・余暇支援を通し1日1日が利用者に満足が出来るサービス提供をすることの大切さを再認識して介護予防の考えではなく安心・安全に過ごせるように取り組んでいきます。

発生場所別状況

| | 居室 | 食堂 | 浴室 | トイレ | 廊下 | ホール | テラス | その他 | 合計 |
|-----|----|----|----|-----|----|-----|-----|-----|-----|
| ふじ | 13 | 6 | 0 | 0 | 3 | 0 | 0 | 0 | 22 |
| ゆり | 9 | 12 | 2 | 2 | 1 | 0 | 0 | 0 | 26 |
| きく | 7 | 4 | 2 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 14 |
| さくら | 18 | 13 | 3 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 38 |
| きり | 19 | 13 | 0 | 2 | 3 | 7 | 0 | 0 | 44 |
| もみじ | 17 | 16 | 0 | 0 | 4 | 7 | 0 | 3 | 47 |
| デイ | 0 | 5 | 2 | 1 | 0 | 6 | 1 | 7 | 22 |
| 合計 | 83 | 69 | 9 | 6 | 12 | 21 | 2 | 11 | 213 |

考察より、2, 3階において居室・食堂での事故が多くありました。2階きくユニットの14件の生活状況より、混合処遇より利用者間の助け合い、利用者からの職員への声掛け、利用者への関わり、個々の生活スタイルより環境に応じた生活を過ごせる環境と考えられます。各ユニットの利用者状況にもよります

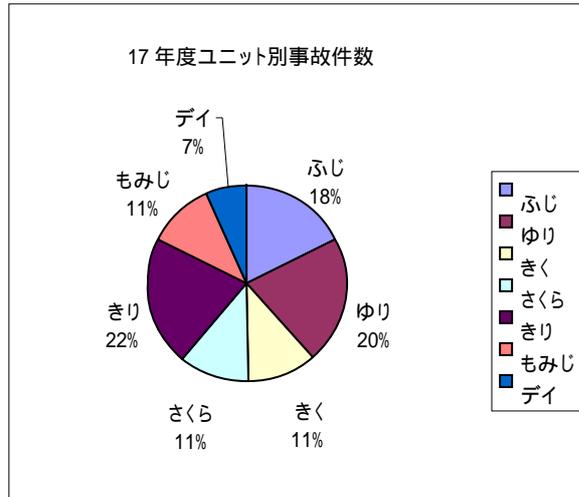
がユニット内における利用者の行動把握をし、介護業務中での優先順位、同じ事故の繰り返しがないように各リーダー、委員が連携し安全への取り組みをしていきます。原因として考えられることは日常生活の中で見守りが必要な利用者、転倒が予測される利用者への認識が不十分なことがあり、今以上の安全への配慮が必要と考えます。安全・安心して過ごせる時間、空間の提供ができるように、利用者への配慮の幅を広げてどの場面でも対応ができるようにしていきます。

事故区分状況

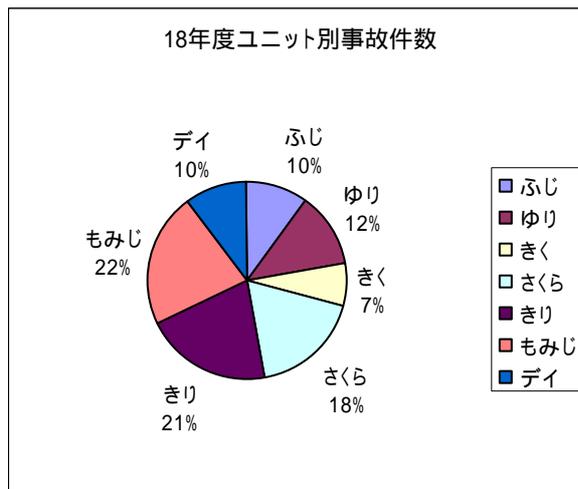
| | 対人関係 | 転倒 | 転落 | 誤嚥 | 所在不明 | その他 | 合計 |
|-----|------|----|----|----|------|-----|-----|
| ふじ | 2 | 8 | 9 | 0 | 0 | 3 | 22 |
| ゆり | 1 | 13 | 1 | 1 | 0 | 10 | 26 |
| きく | 2 | 7 | 4 | 0 | 0 | 1 | 14 |
| さくら | 0 | 12 | 14 | 0 | 1 | 11 | 38 |
| きり | 6 | 13 | 19 | 1 | 0 | 5 | 44 |
| もみじ | 6 | 15 | 17 | 1 | 1 | 7 | 47 |
| デイ | 0 | 7 | 2 | 0 | 2 | 11 | 22 |
| 合計 | 17 | 75 | 66 | 3 | 4 | 48 | 213 |

ユニット別事故件数

| 17年度ユニット別事故件数 | |
|---------------|------|
| ユニット | 事故件数 |
| ふじ | 33 |
| ゆり | 37 |
| きく | 21 |
| さくら | 21 |
| きり | 39 |
| もみじ | 20 |
| デイ | 12 |
| 合計 | 183 |



| 18年度ユニット別事故件数 | |
|---------------|------|
| ユニット | 事故件数 |
| ふじ | 22 |
| ゆり | 26 |
| きく | 14 |
| さくら | 38 |
| きり | 44 |
| もみじ | 47 |
| デイ | 22 |
| 合計 | 213 |

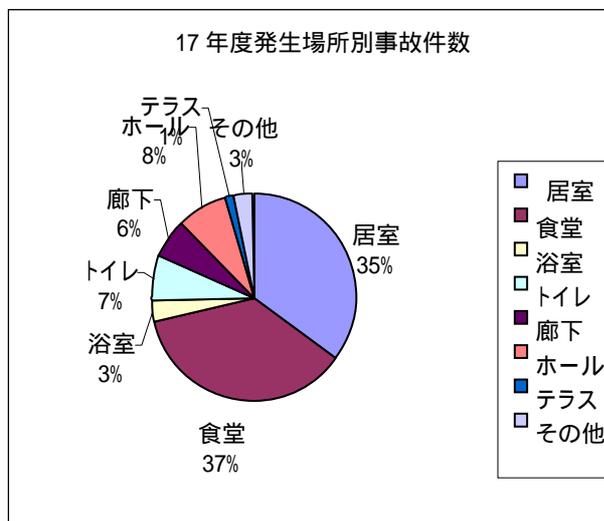


考察

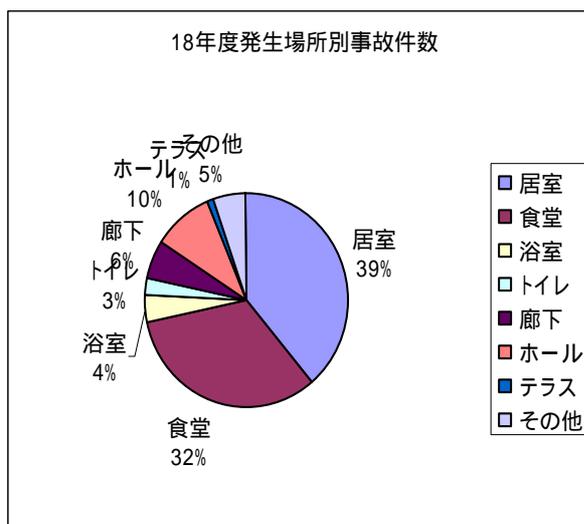
前年度と比較すると2階ふじ、ゆり、きくユニットは減少しましたが、3階さくら、きり、もみじは増加しています。原因として考えられることは、職員の配置、短期入所者の自立者へのアプローチ方法、事故予防の意識・認識不足があげられます。同じ利用者の事故が多いことから引継ぎ、再認識をして減少にむけて努力していきます。

発生場所別事故件数

| 17年度発生場所別事故件数 | |
|---------------|------|
| 発生場所 | 事故件数 |
| 居室 | 64 |
| 食堂 | 66 |
| 浴室 | 6 |
| トイレ | 13 |
| 廊下 | 11 |
| ホール | 15 |
| テラス | 2 |
| その他 | 6 |
| 合計 | 183 |



| 18年度発生場所別事故件数 | |
|---------------|------|
| 発生場所 | 事故件数 |
| 居室 | 83 |
| 食堂 | 69 |
| 浴室 | 9 |
| トイレ | 6 |
| 廊下 | 12 |
| ホール | 21 |
| テラス | 2 |
| その他 | 11 |
| 合計 | 213 |

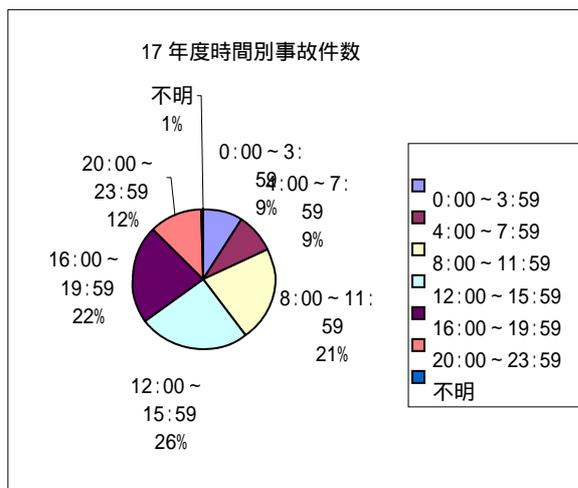


考察

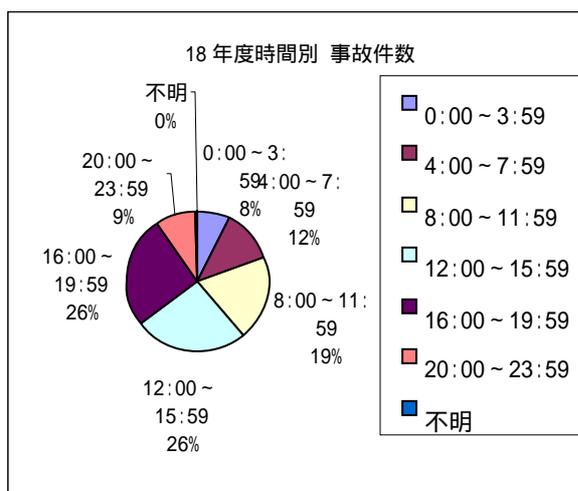
発生場所では居室が増加しています。原因としては他の介護業務を行い、居室までの配慮ができず個々で過ごす時間での声掛け、見守りができていないこと、自立者の移動・臥床位置、離床介助を含め転倒・転落があげられます。また浴室での増加があり、介護職員・利用者から状況や意見を聞き予測される事故を未然に防げるように器具の点検、入浴における備品の購入、入浴介助方法に取り組んでいきます。取り組んできた夜間巡回を継続し、夜勤2名にて3ユニットの業務の中で減少傾向がみられますので、日中における職員の配置、利用者への行動状況の把握、所在確認、見守り方法を検討し減少に向けて努力していきます。

時間別事故件数

| 17 年度時間別事故件数 | |
|-------------------|------|
| 発生時間 | 事故件数 |
| 0 : 00 ~ 3 : 59 | 17 |
| 4 : 00 ~ 7 : 59 | 17 |
| 8 : 00 ~ 11 : 59 | 39 |
| 12 : 00 ~ 15 : 59 | 46 |
| 16 : 00 ~ 19 : 59 | 41 |
| 20 : 00 ~ 23 : 59 | 22 |
| 不明 | 1 |
| 合計 | 183 |



| 18 年度時間別事故件数 | |
|-------------------|------|
| 発生時間 | 事故件数 |
| 0 : 00 ~ 3 : 59 | 16 |
| 4 : 00 ~ 7 : 59 | 26 |
| 8 : 00 ~ 11 : 59 | 40 |
| 12 : 00 ~ 15 : 59 | 55 |
| 16 : 00 ~ 19 : 59 | 55 |
| 20 : 00 ~ 23 : 59 | 20 |
| 不明 | 1 |
| 合計 | 213 |



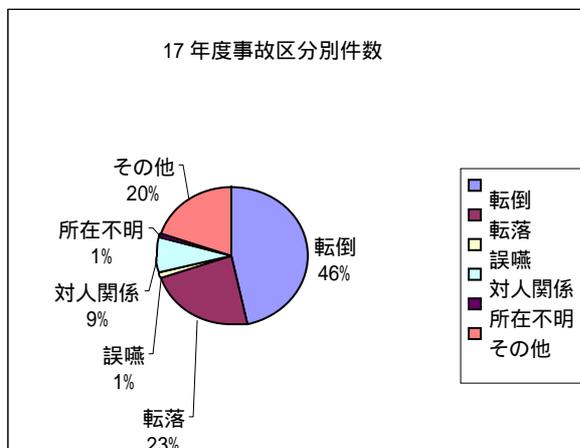
考察

時間別より朝食、昼食、夕食の時間帯に事故件数が多くみられます。朝(4:00~7:59)・夕(16:00~19:59)の時間帯では利用者の状況、状態により人員配置をしましたが配置予定の職員数2名から1名に変更し介護業務にあたる点、食事における業務(準備、食事介助、片付け、服薬介助、口腔ケア、臥床介助)の中、個別介助中に他の場面での事故増加の点あげられます。昼(12:00~15:59)では職員の日課による業務進行(個別ケアを含め)が中心になり利用者との関わり、余暇活動の減少があげられます。

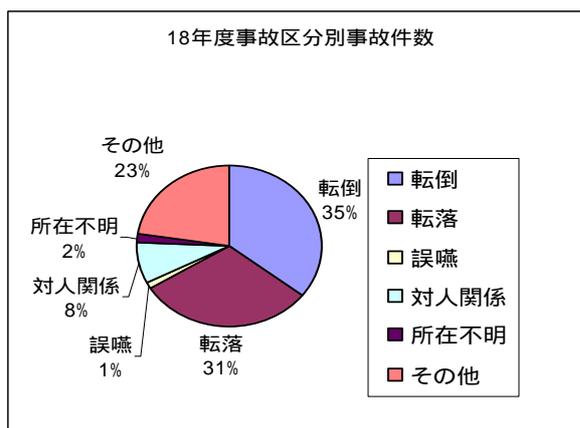
安全面だけでなく、利用者との関わりを持つことの大切さを考え減少に向けて努力していきます。

事故区分別事故件数

| 17年度事故区分別事故件数 | |
|---------------|------|
| 事故区分 | 事故件数 |
| 転倒 | 85 |
| 転落 | 42 |
| 誤嚥 | 2 |
| 対人関係 | 16 |
| 所在不明 | 2 |
| その他 | 36 |
| 合計 | 183 |



| 18年度事故区分別事故件数 | |
|---------------|------|
| 事故区分 | 事故件数 |
| 転倒 | 75 |
| 転落 | 66 |
| 誤嚥 | 3 |
| 対人関係 | 17 |
| 所在不明 | 4 |
| その他 | 48 |
| 合計 | 213 |



考察

前年度と比較をし、転倒、転落が多くみられました。原因として考えられる点は、各区分別の考察に書きましたが安全への配慮が不十分なことがあげられます。事故区分だけでなく、安全に過ごせる空間、時間の提供ができ、増加したことを反省し減少に向けて努力をしていきます。

考察を通して

事故件数が増加したことにより、ユニット、場所、時間区分別状況より介護業務全般において安全への配慮が足りず年間を通して過ぎてしまいました。職員として安全への意識と想像力を養い、年間から毎月、日々へとセーフティマネジメントの再認識をしていきます。また、ソフト、ハード面の両者のバランスを考え、サービス提供における安全への取り組みをしていきます。

(5) 食事委員会

総括として

食事の提供だけでなく、利用者の選択食、食事への楽しみ、大切さを考えて適温での食事提供や利用者状況（生活機能にて嚥下、咀嚼の低下）を観察し、栄養課と職員が連携しその方の食事摂取量・状況の確認、低栄養の予防状態にならないように食事へのアプローチをしてきました。目標において、栄養課職員が盛り付けから、配膳までの準備、状況（食事以外における利用者からの直接介助（トイレ））を広範囲に確認し食事におけるサービスへの質の向上、業務効率を高めていきました。また課題、目標と考えず、利用者の選択・満足ができる食事サービスへの提供に取り組んでいきます。

(6) 広報委員会

総括として

むさしの施設紹介、施設事業決算報告、各部署の事業紹介、職員紹介、行事紹介、季節祭行事 新規取り組みの内容紹介、時事の出来事、介護用語の紹介、掲載をしました。新しい取り組みとして、時事のニュースや社会・世間で流行している事柄も掲載するとともに、介護に関わる介護用語をわかりやすく掲載しむさしのだけでなく福祉を身近に感じていただけるように発行への取り組みをしました。課題としては、計画的な進行が出来ず、発行日に遅れてしまうことがありましたので、計画性のある活動内容にしていきます。

発行回数について

年4回 5・6・7（夏号） 8・9・10（秋号） 11・12・1（冬号） 2・3・4（春号）

相談

1 契約に基づく相談援助（重要事項説明書の見直し）

個人情報保護に関する記載の追加と歯科回診、精神科回診の曜日の変更により、平成19年4月1日付で重要事項説明書の改正を行いました。それに伴い、改正された内容が明記してある重要事項説明書を新たに配布、説明いたしました。そして改めて同意の捺印、サインをしていただきました。

2 入所相談及び退所時支援

入所相談

今年度はおよそ40件の入所相談（来施、電話含む）を受け付けました。相談者の中には、他市の方またケアマネージャーを立てていない方等いらっしゃいましたので、そのようなケースについては、他市のサービスを紹介したり、在宅支援担当に繋いだりといった対応をしました。

判定会議

今年度は合計4回の入所判定会議を実施しました。入所希望者の管理については昨年度に引き続きイントラネットを活用し効率的に行っていました。

反省として、空床期間が年間を通じて合計 448 日ありました。その間はできるだけショートステイのベッドに補填するなど努力しましたが、来年度はできるだけ空床期間が少なくなるように、円滑に判定会議を進めていくようにします。

| 退所者 | 退所年月日 | 理由 | 入所者 | 入所年月日 | 判定会議 | 空床期間 |
|-----|-----------|-------|-----|-----------|-----------|------|
| 1 | H18.5.10 | 死亡 | 1 | H18.5.30 | H17.11.7 | 19 |
| 2 | H.18.6.30 | 他施設入所 | 2 | H18.8.28 | H18.7.28 | 58 |
| 3 | H18.7.7 | 死亡 | 3 | H18.8.29 | H18.7.28 | 52 |
| 4 | H18.7.18 | 死亡 | 4 | H18.8.30 | H18.7.28 | 42 |
| 5 | H18.7.25 | 死亡 | 5 | H18.9.4 | H18.7.28 | 40 |
| 6 | H18.8.8 | 死亡 | 6 | H18.9.5 | H18.7.28 | 27 |
| 7 | H18.8.31 | 在宅復帰 | 7 | H18.10.19 | H18.7.28 | 48 |
| 8 | H18.10.10 | 死亡 | 8 | H18.10.23 | H18.7.28 | 12 |
| 9 | H18.11.7 | 死亡 | 9 | H18.11.17 | H17.11.7 | 9 |
| 10 | H18.11.26 | 死亡 | 10 | H18.12.25 | H18.12.15 | 28 |
| 11 | H18.12.4 | 死亡 | 11 | H18.12.26 | H18.12.15 | 21 |
| 12 | H19.1.5 | 長期入院 | 12 | H19.3.6 | H19.2.26 | 59 |
| 13 | H19.2.22 | 長期入院 | 13 | H19.3.28 | H19.3.21 | 33 |
| | | | | | | 448 |

退所時支援

今年度、退所後在宅復帰者は 1 名。情報の共有化のため、担当ケアマネージャーを当施設のケアマネージャーとし、定期的に当施設のショートステイを利用する際には訪問看護ステーションとの情報を共有する等の調整を行いました。また、他の退所者 1 名に関しては、他特養入所となった関係で、介護、リハビリ、看護よりそれぞれ詳しい情報を提供することで、むさしのを退所しても変わらない生活が送れるよう各部署連携し、支援しました。

3 マンパワーの育成

施設外の地域社会のかかわりの一環として、社会福祉士育成コースが併設されている大学の実習生を受け入れる他、ヘルパー研修、教職過程の介護体験、また小中学生の体験学習等今年度も積極的に実習生を受け入れました。また定期的なクラブ活動ボランティアの他、2月に富士見市社協協力のもと、「地域支援ボランティア講座」を開催したことにより、利用者の生活支援ボランティアの受け入れ件数も増加しました。

納涼祭、餅つき行事では、利用者のご家族によるボランティアで協力を得ることができました。

<地域支援ボランティア講座(全2回)>

第1回 平成19年2月21日実施

参加人数：6名

場所：むさしのリハビリ室、利用者居室（リネン交換実技時）

内容・ボランティアとは（理念、ポイント、活動メニュー、保険等について）

- ・実技 リネン交換

第2回 平成19年2月28日実施

参加人数：8名

場所：むさしのリハビリ室、屋外スペース（車椅子実習時）

内容：実技・車椅子の操作の仕方

- ・実際に乗ってみよう
- ・車椅子を押す介助のポイント 等

質疑応答

「ボランティアをしてみたいけれど、どう始めればよいかわからない」と思っている地域住民を対象に講座を行いました。実際にボランティアをするにあたってのポイントや内容を初めて知ったという方が多く、ボランティアを始める良い動機付けになっていたようです。

講座終了後、受講されたうちの2名がむさしので実際にボランティア活動をされました。うち1名は不定期ではありますが継続中なので、これからは、受け入れ担当である相談員に「細く長くで構わない（これはボランティアを継続する為の重要なポイントのひとつ）ので、いかに継続してもらえるか」というボランティアコーディネーターとしての役割も必要になってきていると感じています。

また今回の講座は「全2回、両日参加可能な方」を対象にしていたため、今後社協から講座の依頼があった場合には、参加人数を増やす為にも、時間、日程、内容また両日参加しなければならないのか等、社協側と更なる話し合いを通して、意義のある講座を開いていけるよう努力します。

<実習生・ボランティア・体験学習の受け入れ実績>

実習生

・ヘルパー実習

ワーカーズコレクティブはな 9名

大原学園 1名

・社会福祉士養成

浦和大学2年生 20名

浦和大学3年生 1名

東京福祉保育専門学校 1名

日本福祉大学 1名

体験学習

・富士見市中学生はつらつ社会体験事業

富士見市立水谷中学校2年生 3名

- ・総合的な学習の時間「お年寄りとのふれあい」

富士見市立南畑小学校 20名

- ・教職「介護等体験」

お茶の水女子大学 1名

ボランティア

- ・生活支援ボランティア

活動人数 16名

清掃・清拭たたみ・洗濯物たたみ・リネン交換・ヘアカット

- ・行事ボランティア

納涼祭（模擬店＜家族ボランティア含む＞・演芸出し物・利用者誘導）参加

活動人数 60名

餅つき（家族ボランティア、学生ボランティア）

活動人数 6名

- ・クラブ

年間活動人数 332名

ハーモニカ 落語

エレキギター マジック・演芸

民謡 茶道

書道 カラオケ

踊り 音楽・詩吟

上記のように地域との関わり、ご家族との協力、関係を築き年間ボランティア人数416名の方にむさしのでの活動に参加していただきました。416名の人数を1日のボランティアの人数に換算すると1.1名になります。来年度は1日1.5名、人数としては550名前後の活動を目指したいと思います。地域への活動範囲、むさしの広報、情報公開、活動の範囲を広げ、行事・クラブボランティアを中心に利用者の生活に関わる間接的（傾聴、環境など）な援助ボランティアにつながるように、相談業務の幅を広げていき、外部の風が通る施設にしていきます。

4 要望及び苦情を提案に

利用者懇談回は年間3回、家族懇談会は年間1回、オンブズマンによる相談は月1回実施しました。

5 日用品の取り揃え

毎月の利用料請求の発送に合わせ、担当者に依頼カードの作成を依頼しました。また、施設購入の方に関しては、依頼カードを保管し、年間でどれくらい購入したかを把握できるようにしました。

ショートステイむさしの

1 介入、面接

初回利用者に関し、積極的に健康診断書（感染症検査）の提出を求め、安全な入所を心掛けました。また、面接表を各課に事前に目を通してもらうことにより情報の共有を図ることができました。また今年度からは、経管栄養対応の利用者の受け入れを開始し、その際は在宅時利用している訪問看護ステーションと連携し、事前にサマリーを送付してもらうなどの協力を得て、円滑な利用につなげられるようにしました。

2 ケアプランの作成

3泊以上利用の方に関しては、ケアプランを作成しました。毎利用時にご家族に提出し、介護内容に変更がある場合は、速やかに内容を変更し作成しました。

3 入退所時間

原則として10時～16時までの受け入れを行っていましたが、ご家族の事情により、例外として9時台や17時台の入退所も受け付けました。

4 送迎の利用

平日（月曜～金曜）の間で、富士見市全域、また川越市、ふじみ野市、志木市の一部において送迎を実施しました。

5 行事等への参加

ご本人の希望、意向を考慮し、今年度も多くのショートステイ利用者に納涼祭や敬老会などの全体行事やユニット行事、またクラブ活動等に参加していただきました。今後も「むさしのに行く楽しみのひとつ」として行事、クラブ活動を位置付けられるよう利用者に声かけし、参加を促していきます。

利用時リハビリ希望のある利用者に関しては病院等からの意見書を元にリハビリを実施しました。また、利用中に状態変化があった利用者にはリハビリ担当と協力し福祉用具や車椅子等の変更にも速やかに対処し、安全で快適な生活が遅れるよう支援しました。

6 ご家族・ケアマネジャーへの情報提供

今年度も引き続きサービス提供者間で行われる担当者会議に積極的に参加し、事業者間との情報の共有に努めました。利用中の事故、トラブルに関しては、速やかに家族、ケアマネジャーに連絡し、信頼関係の構築に努めました。

7 緊急ショートステイ依頼

今年度は冠婚葬祭や市の依頼による緊急ケース等の緊急ショート依頼が合計3件ありました。今年度も空床を利用し緊急の声にできるだけ答えられるよう努めていきます。

看護

1 疾病の早期発見、早期治療

昨年度に引き続き、日常生活におけるバイタル測定、食事摂取量、排泄記録に基づきながら、また、ワーカーとの連絡を密にとりながら疾病の早期発見に努めました。軽症においては施設内で処置をし、また、状況に応じて協力病院に（篠田中央クリニック、みずほ台病院、その他）に連絡をとり受診しました。

2 回診、健康診断

内科、外科(篠田中央クリニック：院長)、歯科（てらおファミリー歯科：院長）、精神科(富士見メンタルクリニック：院長)、回診を診察室、居室にておこないました。また健康診断を5/1に実施し、入所利用者の健康管理をしていただきました。

内科・外科回診 毎週火曜 15:00～17:00

歯科回診 毎週金曜 14:00～16:00

精神科回診 隔週木曜 14:00～16:00

| 回診日 | 内・外 | 精神科 | 歯科 | 回診日 | 内・外 | 精神科 | 歯科 | 回診日 | 内・外 | 精神科 | 歯科 |
|------|-----|-----|----|------|-----|-----|----|-------|-----|-----|----|
| 4/4 | 18 | | | 7/26 | | | 21 | 11/24 | | | 24 |
| 4/5 | | | 24 | 8/1 | 20 | | | 11/28 | 20 | | |
| 4/7 | | 3 | | 8/2 | | | 22 | 12/1 | | | 23 |
| 4/11 | 21 | | | 8/8 | 31 | | | 12/5 | 27 | | |
| 4/12 | | | 25 | 8/9 | | | 21 | 12/7 | | 2 | |
| 4/18 | 20 | | | 8/10 | | 3 | | 12/8 | | | 22 |
| 4/20 | | 3 | | 8/22 | 20 | | | 12/13 | 19 | | |
| 4/25 | 20 | | | 8/23 | | | 20 | 12/15 | | | 25 |
| 4/26 | | | 25 | 8/24 | | 0 | | 12/19 | 34 | | |
| 5/2 | 19 | | | 8/29 | 18 | | | 12/21 | | 0 | |
| 5/9 | 20 | | | 8/30 | | | 21 | 12/22 | | | 24 |
| 5/10 | | | 22 | 9/5 | 19 | | | 12/26 | 24 | | |
| 5/11 | | 3 | | 9/6 | | | 23 | 1/5 | | | 23 |
| 5/16 | 21 | | | 9/12 | 21 | | | 1/9 | 23 | | |
| 5/17 | | | 25 | 9/14 | | 3 | | 1/12 | | | 26 |
| 5/23 | 21 | | | 9/15 | | | 21 | 1/16 | 16 | | |
| 5/24 | | | 22 | 9/19 | 22 | | | 1/19 | | | 26 |
| 5/25 | | 0 | | 9/22 | | | 20 | 1/23 | 21 | | |
| 5/30 | 20 | | | 9/26 | 16 | | | 1/25 | | 0 | |
| 5/31 | | | 26 | 9/28 | | 0 | | 1/26 | | | 26 |

| | | | | | | | | | | | |
|------|----|---|----|-------|----|---|----|------|-------|----|-------|
| 6/1 | | 3 | | 9/29 | | | 20 | 1/30 | 24 | | |
| 6/6 | 20 | | | 10/3 | 20 | | | 2/1 | | 0 | |
| 6/7 | | | 22 | 10/5 | | 2 | | 2/2 | | | 26 |
| 6/13 | 18 | | | 10/6 | | | 21 | 2/13 | 14 | | |
| 6/14 | | | 24 | 10/10 | 17 | | | 2/15 | | 0 | |
| 6/20 | 17 | | | 10/13 | | | 21 | 2/16 | | | 25 |
| 6/21 | | | 22 | 10/17 | 21 | | | 2/20 | 21 | | |
| 6/22 | | 3 | | 10/19 | | 0 | | 2/23 | | | 26 |
| 6/27 | 23 | | | 10/20 | | | 22 | 2/27 | 20 | | |
| 6/28 | | | 23 | 10/24 | 17 | | | 3/1 | | 0 | |
| 7/4 | 20 | | | 10/27 | | | | 3/2 | | | 25 |
| 7/5 | | | 22 | 10/31 | 18 | | | 3/6 | 21 | | |
| 7/6 | | 3 | | 11/7 | 19 | | | 3/9 | | | 24 |
| 7/11 | 22 | | | 11/9 | | 2 | | 3/13 | 20 | | |
| 7/12 | | | 21 | 11/10 | | | 24 | 3/15 | | 0 | |
| 7/18 | 21 | | | 11/14 | 19 | | | 3/16 | | | 26 |
| 7/19 | | | 21 | 11/17 | | | 25 | 3/20 | 23 | | |
| 7/20 | | 0 | | 11/21 | 20 | | | 3/23 | | | 23 |
| 725 | 17 | | | 11/23 | | 0 | | 3/27 | 20 | | |
| | | | | | | | | 合計 | 1,003 | 30 | 1,020 |

年間を通して内・外科回診 1,003 人、歯科回診 1,020 人、精神科回診 30 人の利用者が施設内にて受診しました。

前年度と比較して内・外科回診は延べ 75 人の減となっています。早期発見・早期治療を心がけ、施設内回診日を待たずに早めに受診をした結果です。歯科回診は延べ 141 人の増となっています。昨年度より引き続き誤嚥性肺炎の予防に効果を上げています。

施設内には 48 名の認知症と診断された方が生活しており、その数は年々増えている状況です。開設当初はそのような方の他者とのトラブル（主に暴力）が多くありましたが、年々少なくなっております。利用者に関係する職員の介護・看護職員の技術の向上がそのような結果となっています。そのため、回診にて診ていただく利用者も昨年度より 34 人の減となっています。

入退院一覧

| 氏名 | 入院日 | 退院日 | 入院 日数 | 病名 | 病院名 | 搬送方法 | | 備考 |
|----|-----|-----|----------|----|-----|------|---|----|
| | | | | | | 施 | 救 | |

| | | | | | | | | |
|---|-------|-------|----|----------------|--------------------------|---|--|----|
| Y | 5/10 | 5/10 | 1 | 転移性肝臓ガン | 篠田中央クリニック | | | 永眠 |
| N | 5/22 | 5/26 | 4 | 食思低下・尿路感染 | 篠田中央クリニック | | | |
| Y | 5/29 | 6/19 | 21 | (コーヒ-様残渣嘔吐) | 篠田中央クリニック | | | |
| K | 6/10 | 9/14 | 96 | 食思低下 | 鶴瀬病院 | | | 退所 |
| Y | 6/2 | 6/7 | 5 | 尿路感染・敗血症疑い | 篠田中央クリニック | | | |
| N | 6/5 | 7/25 | 50 | 食思低下 | 篠田中央クリニック | | | 永眠 |
| T | 6/7 | 7/7 | 30 | 食思低下・検査入院 | 篠田中央クリニック | | | 永眠 |
| K | 6/8 | 6/16 | 8 | (熱発・嘔吐)検査入院 | みずほ台病院 | | | |
| M | 6/17 | 7/12 | 25 | 左肺炎 | みずほ台病院 | | | |
| Y | 6/1 | 7/28 | 57 | 肝機能障害 | 篠田中央クリニック | | | |
| M | 6/26 | 7/3 | 7 | 左肺炎 | 篠田中央クリニック | | | |
| Y | 7/18 | 7/18 | 1 | 急性心不全 | みずほ台病院 | | | 永眠 |
| M | 7/19 | 8/8 | 20 | (呼吸不全) | みずほ台病院 | | | 永眠 |
| K | 7/24 | 8/11 | 18 | 輸血・尿路感染 | 篠田中央クリニック | | | |
| U | 7/28 | 7/30 | 2 | 食思低下 | 志木市民病院 | 家 | | |
| O | 8/2 | 8/9 | 7 | 脳梗塞 | 上福岡総合病院 | | | |
| K | 8/6 | 8/24 | 18 | うっ血性心不全 | 埼玉自治医大 翌日みずほ台 病院転院 | | | |
| Y | 8/15 | 8/17 | 2 | 痰がらみ、呼吸不全 | みずほ台病院 | | | |
| Y | 8/19 | 8/24 | 5 | 意識障害 | みずほ台病院 | | | |
| O | 8/21 | 9/8 | 18 | 脳梗塞 | 篠田中央クリニック | | | |
| T | 8/27 | 10/13 | 47 | 意識障害 | みずほ台病院 | | | |
| K | 9/7 | 10/2 | 25 | 腸閉塞、肝機能障害 | みずほ台病院 | | | |
| Y | 9/8 | 10/13 | 35 | 肝機能障害、総胆管結石 | 篠田中央クリニック | | | |
| S | 9/22 | 11/10 | 49 | 浮腫、熱発、低酸素状態 | 篠田中央クリニック | | | |
| O | 9/22 | 9/29 | 7 | 肝機能障害 | 篠田中央クリニック | | | |
| W | 10/7 | 10/17 | 10 | 肺炎 | 篠田中央クリニック | | | |
| O | 10/10 | 10/10 | 1 | 心不全 | 篠田中央クリニック | | | 永眠 |
| Y | 10/13 | 10/21 | 8 | 尿路感染・脱水 | 篠田中央クリニック | | | |
| A | 10/18 | 11/8 | 21 | 肝機能障害 | みずほ台病院 | | | |
| O | 10/28 | 11/7 | 10 | 急性心不全 | みずほ台病院 | | | 永眠 |
| M | 11/16 | 11/30 | 14 | 肺炎 | みずほ台病院 | | | |
| A | 11/22 | 12/22 | 30 | 肝機能障害(胆管結石の疑い) | みずほ台病院 | | | |
| K | 11/24 | 11/29 | 5 | 左大腿部頸部骨折 | 篠田中央クリニック | | | |

| | | | | | | | | |
|----|-------|-------|-----|--------------|--------------------|----|----|----|
| Y | 11/26 | 11/26 | 1 | | 南古谷病院 | | | 永眠 |
| S | 12/3 | 1/5 | 33 | 高血糖 | みずほ台病院 | | | 退所 |
| O | 12/29 | 1/10 | 12 | 肺炎 | 上福岡総合病院 | | | |
| W | 1/4 | 2/22 | 49 | 胸水 | みずほ台病院 | | | 退所 |
| A | 1/4 | 1/17 | 13 | 胸水 | みずほ台病院 | | | |
| D | 1/15 | 2/7 | 23 | 左大腿骨頸部骨折 | 篠田中央クリニック | | | |
| A | 1/18 | 1/20 | 3 | 急性循環不全・低酸素状態 | みずほ台病院 | | | |
| I | 1/19 | 1/22 | 4 | レベル低下 | 篠田中央クリニック | | | |
| A | 1/26 | 2/7 | 12 | けいれん・低酸素 | 篠田中央クリニック | | | |
| K | 1/29 | 2/9 | 11 | 肺炎 | 篠田中央クリニック | | | |
| A | 2/8 | 3/14 | 34 | 吐血・精査 | みずほ台病院 | | | |
| W | 2/12 | 2/28 | 16 | 肺炎 | 篠田中央クリニック | | | |
| A | 2/12 | 3/1 | 17 | 肺炎 | 篠田中央クリニック | | | |
| A | 2/28 | 3/16 | 16 | 熱発・精査 | みずほ台病院 | | | |
| A | 3/6 | 3/12 | 6 | 右肺炎 | みずほ台病院 | | | |
| W | 3/9 | 4/5 | 27 | 尿路感染 進行性ガン発見 | 篠田中央クリニック 赤心堂病院 | | | 退所 |
| 合計 | | | 934 | | | 31 | 17 | |

年間を通して延べ934人の利用者が入院しました。1日平均して2.56人が入院していることになりました。利用者の重度化（高齢化）から長期入院の利用者が増えたこと、早期発見・早期治療を心がけ様子観察のための入院が増えたことが原因として考えられます。搬送方法は施設においては昨年同様、救急車での搬送は10件ほど増えています。

3 感染症対策

11月に感染性胃腸炎に20名程の利用者が感染しました。嘱託医や産業医の先生から助言をいただき、また、他職種と共同で対応策を考え実践しました。他施設では死亡者も出る中、むさしのにおいては、1ヵ月ほどで感染者はいなくなりました。また、インフルエンザ予防接種も昨年同様、利用者、職員共に行い予防を心がけたため、インフルエンザに感染する利用者はいませんでした。

具体的な対策としては、感染症対策検討階を立ち上げ対応策を検討後、現場に周知し実施しました。その後、産業医でもある中島医院、院長、中島一郎先生を迎え、衛生委員会を開催し再度、対応策を検討後、現場に周知、実施をするという手順を踏む事により、徹底した感染症対策をすることができました。

リハビリ

利用者個々の ADL 評価・ケアプランを基に、生活環境に密着した身体機能・活動能力を活かせるよう機能訓練やマッサージ、また、医師・歯科医師の指示の下、医学的リハビリテーションも提供しました。

1 作業療法

専門職（作業療法士）の導入ができず、今年度は施行することができませんでした。

2 動作介助

利用者の生活環境・身体の変化に応じた介助方法を、残存機能が最大限に活かされるよう検討を行いました。また、新人職員への動作介助の指導（方法及び考え方）、介護スタッフに対して、介助方法を、なぜその方法をとるのかを理解してもらい、全ての介助者が統一した介助ができるように利用者の生活の場で指導を行いました。

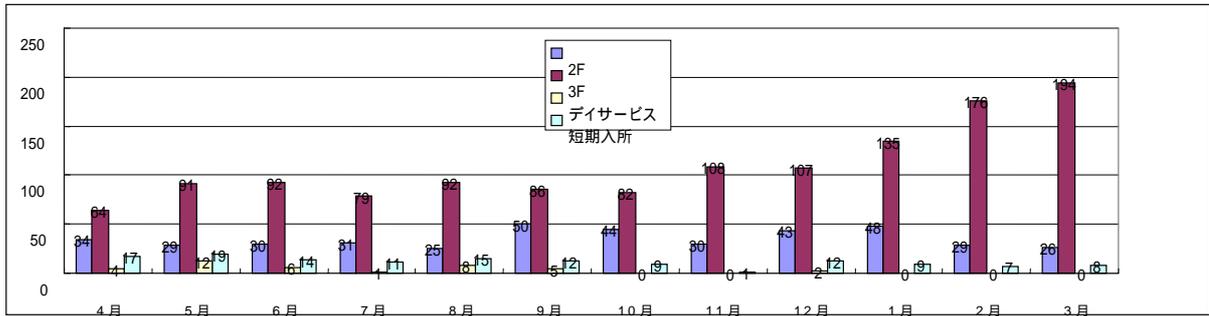
福祉用具の導入が必要なケースについて、廃材での作成、既製品のフィッティングを行いました。

3 アクティビティ

利用者個々の意見とその御家族の意見を聞き、主に精神の安定を目的とした散歩やパズル等を行いました。

| | 日数 | 2F | 3F | デイ・ビス | 短期入所 | 計 |
|-----|------|------|-------|-------|------|-------|
| 4月 | 20 | 34 | 64 | 4 | 17 | 119 |
| 5月 | 23 | 29 | 91 | 12 | 19 | 151 |
| 6月 | 22 | 30 | 92 | 6 | 14 | 142 |
| 7月 | 21 | 31 | 79 | 1 | 11 | 122 |
| 8月 | 23 | 25 | 92 | 8 | 15 | 140 |
| 9月 | 21 | 50 | 86 | 5 | 12 | 153 |
| 10月 | 22 | 44 | 82 | 0 | 9 | 135 |
| 11月 | 22 | 30 | 108 | 0 | 1 | 139 |
| 12月 | 21 | 43 | 107 | 2 | 12 | 164 |
| 1月 | 20 | 48 | 135 | 0 | 9 | 192 |
| 2月 | 20 | 29 | 176 | 0 | 7 | 212 |
| 3月 | 22 | 26 | 194 | 0 | 8 | 228 |
| 計 | 257日 | 419人 | 1306人 | 36人 | 134人 | 1897人 |

年間を通じ1日平均約7名の練習を施行しました。



地域課

デイサービスセンターむさしの

平成18年4月から、介護保険法の改正に伴い新たなシステムでサービスが始まりましたが、富士見市では予防給付開始が1年見送りとなりました。18年度の通所介護事業では、既存のサービス体制を継続しつつ、来年度の新体制導入を見据えて諸準備を進めること、また近隣においてライバルとなる複数の施設建設が進む中、存続をかけた利用者確保していくことが大きな課題となりました。そのために、施設方針である個別ケアの質を深め、サービス面でも他施設との差別化を進めることに努めました。またデイサービスむさしのの実際のサービスを肌で感じ選んでもらえるように、体験利用の実施やボランティアの受け入れ等を積極的に行いました。

1 デイサービス運営状況

(1) 小規模型事業所として運営

- 平成17年度の利用者の延べ日数月平均が300人を下回ったため、介護保険の規準に従い、18年度は事業区分を小規模型に変更し運営しました。

| | 17年度 | 18年度 | | 17年度 | 18年度 |
|---------|--------|--------|--------|---------------------|---------------------|
| 年間稼働日数 | 313日 | 313日 | 延日数月平均 | 284.7 | 382.8 |
| 年間利用延日数 | 3,416日 | 4,594日 | 利用率月平均 | (定員20名で計算) 54.6% | (定員25名で計算) 58.7% |

運営日

- 月曜日から土曜日の週6日間の運営を継続実施。
- 年末年始のみ12月30日～1月3日の間運営を休止しました。

17年度と同じ稼働日数でしたが、利用延べ日数は、1178日増加しました。

- ・土曜日に関しては、10月頃より利用者が20人を超えたため、職員5人体制で対応を試みましたが、しかし、その分平日の職員休みが発生するためやりくりが困難となり、利用者受け入れを止め、職員4人体制で運営を継続、その後利用者数は、自然減少（入院・施設入所など）もあり現在は12～14人ぐらいの人数で落ち着いています。

利用率

- ・4月以降、利用者数の自然減少が目に見えてありましたが、利用者数を増やすさまざまな努力を重ねた結果、9月～11月には毎月5人以上の新規利用者を受け入れるという状況になり、結果的には利用率が大きく上昇しました。1月・2月に入ると、自宅で転倒してけがをしたり、体調を崩して入院するなどが数件、さらに週に3日以上デイ利用していた利用者が、施設入所が決まったり、家庭事情でショート利用に切り替えるというケースが次々と発生し、利用率が下がってしまいました。

(2) 利用者数

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 新規利用 | 5 | 1 | 4 | 2 | 3 | 5 | 8 | 9 | 0 | 4 | 2 | 3 | 46人 |
| 平均人数 | 12.5 | 13.6 | 13.7 | 13.8 | 13.0 | 14.7 | 15.5 | 16.9 | 16.3 | 14.7 | 16.2 | 15.4 | 14.7人 |
| 延べ人数 | 313 | 368 | 355 | 358 | 350 | 381 | 403 | 439 | 424 | 398 | 388 | 417 | 383人 |

- ・18年度は、4月より毎月新規の利用者を増やすことができ、利用実績が確実に上昇しました。9月以降、利用者が20人を超す日も多くあり、最も多い日には22人の利用がありました。

・特養の利用者の受け入れ

月曜日から金曜日の間の午前中、1日1～3人の特養利用者を受け入れ、趣味活動の援助をしました。無償ですが、参加している特養の利用者の楽しみを大切に、どんな状況でもできる限り断らずに受け入れるように努めました。日々の努力で今年度もそれぞれの利用者が良い作品を仕上げることができました。

(3) 年齢別（3月末現在登録者62名）

- ・75歳以上の後期高齢者が51名と全体の82%を占め、全体の50%が80歳以上となっています。

最低年齢58歳（男性）・60歳（女性）、最高年齢94歳（男性1・女性1）で全体の平均年齢は79.5歳でした。

(4) 介護度別（3月末現在登録者62名）

- ・経過的要介護5名、その内女性1名が平成19年3月に認定更新後要支援1と判定され、4月より予防給付対象となり、当事業所にて週1回介護予防サービスの利用を開始しています。

要介護1の26名が現在利用中ですが、この内数名が19年度中に予防給付に移行することが予測されます。

- ・全体的に要介護3～5の利用者が14名（要介護5は無し）と減少傾向です。

(5) サービス提供時間

- ・全員が9時30分～16時30分のうち、6時間以上8時間未満の利用でした。

新年度から、時間延長サービスの体制を整え、希望があった場合には対応していきます。

2 事業内容

(1) 送迎サービスについて

デイ利用者のうち、1名が火曜日のみ家族送迎でしたが、後は全員が「迎え」「送り」ともに施設送迎を利用しました。一昨年10月から、全車1便体制に戻して送迎を実施、年度が変わった昨年4月からもその体制を継続実施しました。しかし、利用者が増加するにしたがって、度々送迎体制の見直しを行う必要が生じ、数度にわたって大きく変更せざるを得ませんでした。変更時には、地域や利用者の負担・職員の負担また効率面を考慮しつつ、2便体制を再び取り入れました。1便だけの2台のワゴンには定員一杯まで乗ってもらい、2台の軽自動車はそれぞれ1便後、すぐにまた2便目を反対方面に向かって出発していくという状況でしたが、何とかやりくりできました。しかし遠方から通所のふじみ野市（旧大井町や三芳町）の3名や川越市4名の利用日、またはみずほ台方面（東上線南側）の利用者の利用日などは、どうしても送迎に時間がかかり利用者の到着時間に大きな差ができてしまい、その後の活動に影響が出てしまいました。また、夏や冬の送迎は体力的・精神的に職員にとってかなりの負担となり、体調を崩す職員もでてかなり厳しい状況のときもありましたが、職員の連携で何とか切り抜けることができました。

| 年間の送迎 | | 迎え | 送り | 計 |
|--------|------|-------|-------|-------|
| 延べ実施回数 | 17年度 | 3330回 | 3378回 | 6708回 |
| | 18年度 | 4497回 | 4546回 | 9043回 |

(2) 年間行事

| 月 | 実施日 | 行事名 | 内容 | 参加人数 | 備考 |
|---|--------|-------|------------------------|------|--------------|
| 4 | 3～8日 | 花見ツアー | ・花見ドライブをした後、公園でお茶を楽しむ。 | 全員 | 山崎公園 市内名所 |
| | 20～30日 | 蓬摘み | ・散歩を兼ねて蓬を摘む。 | 15名 | 周辺土手 |
| 5 | 22～27日 | 蓬団子作り | ・懐かしい団子を作り交流する。 | 全員 | デイルーム |
| 6 | 12～17日 | 花見外出 | ・花を觀賞し季節を感じ楽しむ。 | 全員 | 菖蒲園 |

| | | | | | |
|----|-------------------|-------------------------|---|---------------------------|-----------------------|
| 7 | 17～22日 29日 | 七夕 そうめん流し 納涼祭 | ・短冊飾りに願いを記しつるす。 ・涼しさと呼ぶ流しそうめんを食べ楽しく過ごす。 ・夏のひと時を涼みながら演芸などで楽しむ。作品販売を行う。 | 全員 全員及び特養 数名 22名 | デイルーム テラス 特養と合同 |
| 9 | 16～21日 | 敬老会 (長寿を祝う会) | ・レクや演芸を楽しみ、健康と長寿を祝う。 | 55名 | デイルーム |
| 10 | 16～28日 | 喫茶店へ外出 | ・近くの店でおいしお茶やコーヒーを味わう。 | 全員 | はな ひだまり |
| 11 | 13～16日 | 焼き芋パーティ | ・外で秋の自然に親しみながら焼き芋を焼き楽しむ | 全員 特養数名 CM数名 | テラス |
| 12 | 18～23日 17日 | クリスマス会 餅つき会 | ・ハンドベルの演奏やコーラスを楽しむ。プレゼント贈呈 ・餅つきをし交流を深める。 | 60名 利23 家27 | デイルーム むさしの家 |
| 1 | 11～17日 | 初詣外出 | ・みんなで神社に初詣に行き、健康と幸せを祈る | 全員 | 針谷氷川 神社 |
| 2 | 19～24日 | ミニゲーム大会 | ・いろいろな楽しいゲームで体を動かし交流する | 全員 | デイルーム |
| 3 | 中旬～ | トマトを買いに行こう | ・近くの農家に採れたてのトマトやきゅうりを買に行く。 | 希望者 40名 | デイルーム |

(3) 入浴サービス

| | | 一般浴 | 特浴(リフト浴) | 合計 |
|---------|------|-------|----------|-------|
| 年間延べ入浴者 | 17年度 | 2911人 | 130人 | 3041人 |
| | 18年度 | 3762人 | 121人 | 3883人 |

・入浴利用のない利用者(女4名)、そのときの体調や気分によって入浴する利用者(女性4名、男性2名)や認知症のため入浴拒否のある利用者(女性4名)

上記の中には、「デイでの入浴を3年間しなかったが、今年1月から入浴を始め今はとても入浴を楽しみにしている女性利用者が1名」、「認知症のため入浴を拒否していたが、昨年から入浴するようになり、現在は毎回入浴している女性利用者3名」がいます。職員の対応努力が良い結果となっ

て現れた事例です。

利用人数が多いときは、無理をせず午前・午後に分けての入浴としました。

- ・入浴の介助は同性介助の徹底を目標としましたが、男性の場合は、男性職員の人数等により女性職員が担当することも多く徹底して実施することができませんでした。女性の場合は、完全な同性介助が実施でき、利用者には当たり前のこととして定着したようです。
- ・年間を通じ、季節感を取り入れた菖蒲湯やゆず湯などの実施、また今年度は浴室や更衣室に、ほほえましい動物の人形などを置き、ゆったりと和やかに入浴を楽しんでもらえるように工夫し好評でした。また利用者それぞれの身体状況を考慮した対応や希望に沿った対応を心がけ、利用者が満足できる安全な入浴サービスが提供できたかと思えます。
- ・反省点として、利用者数が増えてきたため、効率化を図るために少し時間を意識しすぎた援助、介助しすぎの援助になったのではないかと感じます。介護予防や自立支援を意識し、もっと利用者の心身の機能を生かした援助をしていくことが今後の課題です。
- ・夏には、以前からの利用者の声を受け入れ、更衣室に扇風機を設置し大変喜ばれました。

(4) 排泄の介助

- ・利用者の中には排泄が自立しているとはいえ、目の不自由な利用者や歩行に不安のある利用者、またトイレの位置がわからなくなる利用者が多いため、常に職員が意識して見守り、必要に応じて介助したり付き添いを実施できたと思えます。
- ・便失禁の後始末時には、ノロウイルスによる感染予防のため手袋使用や消毒の実施を徹底しました。
- ・介助や声かけを必要とする利用者の場合は、排泄パターンを把握し、個別にトイレ誘導や介助を実施しました。さらに認知症の利用者や、家族希望のあった利用者の中には、排泄状況を記録し毎回連絡帳に記入し報告するという業務をしっかりこなすことができ、家族にも感謝されました。
- ・プライバシー確保や心身共に負担のない介助、利用者の気持ちに沿った介助という点は、今後もさらに職員が努力していかなければならないことです。

(5) 食事サービス

- ・今年度はノロウイルスの件もあり、清潔確保と感染防止の点で一段と細やかな配慮をしつつ、食事の盛り付けや配膳をしました。食事摂取に特別配慮が必要な利用者は、職員間で検討し十分な対応ができたと思えます。
- ・利用者の声は、早めに栄養課に伝えて対応していくように努め、喜ばれました。
- ・今年度は毎月のバイキングがなく、行事食も少なかったため、利用者にとって食事の楽しみがもっとほしかったように感じました。昼食提供延べ 4571食。

(6) 趣味活動・その他

- ・作業やレクリエーションのマンネリ化を防ぐために、新しいアイテムを常に提供できるように、また同じアイテムでも利用者に合わせて難易度を変えいろいろな工夫をしながら準備しました。特に

昨年の秋ごろから2月にかけて、新しい試みとして、その日に持ち帰ることができる「匂い袋」「しめ縄飾り」「手まりりんご」などのアイテムを数種類提供しました。これは、長期間地道な作業を続けて仕上げる作品と違って、その日に簡単に仕上げられ、しかもすぐ持ち帰って自分たちの家に飾ることができるため大変好評で、いつも作業に興味を示さない女性利用者や男性利用者まで多くの利用者に参加してもらいました。中にはプレゼント用に何個も同じアイテムに取り組む利用者もいました。

- ・利用者自身からやりたいことが提示された場合には、できる限り希望の作業に取り組んで作品作りまで実現できるように援助に努めました。
 - ・新しい作品が出来上がると、全員の前で完成を喜びあい披露することも必ず行いました。これは他の利用者の刺激や意欲付けになり、あちこちで作品の見せ合いや話の輪ができ、全体のコミュニケーションを深めるのにとっても役立ちました。
 - ・今年度は新規の利用者も多く、デイでの活動に慣れない、また消極的な利用者に対しては、職員がマンツーマンで談話などで気持ちを引き出し、少しでも何かに取り組む気持ちを持てるような援助を心がけました。職員の接し方の工夫で利用者が意欲をもって活動するようになったり、自信を取り戻したりするケースも昨年度以上に多く見られました。
 - ・園芸の実施も利用者にさまざまなよい影響をもたらしました。家にある花を持ってきてくれたり、草取りや水遣りを定期的に手伝ってくれる利用者もいました。
- 例年取り組んできた米作りは田植えの時期が遅れた上に、世話が行き届かなかったせいか、残念ながら実りが悪く収穫しても食べる米にはなりません。
- ・来年度は、各職員がもっと発想し、さまざまなアイデアを生かした作業アイテムを積極的に取り入れていくことが求められています。

作業

今年度はスティック編み物、タイルモザイク画、パイル盆製作、ちぎり絵、塗り絵、ビーズ細工、粘土細工、ペーパーブロック、折り紙、革細工、しおり人形、卵殻細工、ペーパーフラワー、メッシュフラワー、きのこ人形、ピエロ人形、押し絵、ミニアート、折り紙細工、刺し子、水彩画、木工細工、巾着袋作りロールキャッチャー、などに加えて、下記の作業を取り入れました。

| | |
|---------|--------------------------|
| 匂い袋飾り | 不織布・造花・リボン、ポプリで飾りを作る。 |
| しめ縄作り | わら縄を細工し、水引や花を使って飾りを作る。 |
| 手まりりんご | りんず布を発砲スチロールに貼りりんご型に仕上げる |
| 押し花絵 | 押し花を色画用紙に工夫して貼り、壁飾りにする。 |
| カゴ編み | さまざまな色の梱包紐で花かごを編む。 |
| 箱の小物入れ | 色々な箱に和紙を貼り小物入れを作る。 |
| 織り物 | 機織り機でテーブルクロスや花瓶敷きを織る |
| モール細工飾り | モールをいろいろな形にして飾り作りをする。 |

レク・クラブ活動

18年度は定期的なクラブ活動として、月・火曜日は書道、9月からは隔週で木・金曜日に花クラブを行いました。いずれもボランティアの講師により本格的な指導を実施しました。水曜日には特養での書道クラブへ5、6人が参加しました。花クラブは予想をはるかに上回る数の利用者30人以上が参加し、毎回季節の花々を楽しみながら活け、家に持ち帰りました。持ち帰った後もそれぞれ家で花の世話をして皆さん楽しんだようです。昨年6月ごろから時々でしたが、地区のボランティアによるお茶クラブを行い皆さんにとっても喜ばれました。

そのほか、18年度はゲームや軽スポーツなどの体を動かすレクに加えて、本の読み聞かせ、紙芝居、トランプ、カルタ、クイズなどの頭を使うレクも多く実施しました。

心地良い空間づくり

利用者が心身ともに開放的にゆったりと過ごせる時間を大切に、昼食後には陶器のカップにコーヒーや紅茶、時には昆布茶などを提供しました。場所を変えてゆったりとイスに座り、お茶を飲みながら日光浴やフットマッサージをするのを楽しみにしている利用者も多かったようです。また別の場所ではオセロゲームや談話で交流したり、時には静かに1人うとうとしたりと、利用者それぞれが自由に過ごす姿が見られました。

昨年の秋から、テレビをダイルームからキッチンルームに移し、テレビを見たい利用者がキッチンルームへ移動するようにしました。それまで常につけばなしで騒々しい空間だったダイルームが時には静かな作業空間に、また時には音楽を聞いたり談話が弾む部屋になりました。

(7) 介護予防サービスの実施に向けて

介護予防体操（健康体操）の実施

平成19年4月の介護予防サービス提供への準備として、昨年2月より開始した介護予防体操を4月以降も毎日午後14時より45分間実施しました。利用者の多くが参加し、活動として欠かせないものとして定着しました。5、6ヶ月過ぎた頃、利用者の中から「足の痺れがなくなった」「楽に歩けるようになった」「体が温まりとても調子が良い」などの声が聞かれるようになり、効果が目に見えて現れ驚かされました。介護予防運動指導員の資格者2名と専門職養成講座を修了した職員1名が交代で担当し実施しました。

用具はセラバンド、ソフトジムなどの専門用具、サランラップ利用の棒、モヤットボール、タオルなどを使用。

口腔ケア・口腔ケア体操の実施

昨年の3月に利用者個々のコップや歯ブラシをそろえ、4月より歯磨きを開始しました。家で昼食後にうがいや歯磨きをする習慣の人は少ないようで、デイで昼食後の歯磨きを呼びかけてもはじめはしてくれない人が大分いました。しかしうがいや歯磨きをするとすっきりして気持ちが良いということが実感できると、自分から洗面所に行く人も増え、口腔ケアがすっかり定着したようです。口臭が改善された利用者もいます。昨年の10月からは、昼食前に10分間口腔ケア体操を実施するようにしました。ある利用者は口の動きが良くなり、言葉の発音が以前よりはっきりしたとい

ます。

(8) 相談等における努力

各事業所との関わり

- ・利用者のデイ利用時の様子や変化、また特変をこまめに連絡し、ケアマネにも利用者の状況を共に把握してもらえるように情報提供に努めました。時には行事に招くなど事業所との接触をこまめに続けた結果、新規紹介が増え、利用者獲得につながりました。昨年12月分から各利用者の1ヶ月の様子をまとめた記録「利用状況表」を作成し、実績と一緒に届けるようにしたところ、事業所からとても喜ばれています。
- ・実績報告の作成は、利用者数が増え大変になりましたが、できる限り月末に済ませ、次の月の1日には各事業所に配布できるようにしました。これまではファックス送付で済ませる方が多かったのですが、今年度は個人情報への配慮も含め、相談員が事業所訪問して直接渡すようにしました。その他、請求業務も同様に円滑且つ正確に処理するように努めました。
- ・各事業所からのケアプラン要請には、迅速に対応しました。

利用者・家族との関わり

- ・昨年度よりも連絡帳の記録内容を充実させ、小さなことも大切に記入するようにしました。特にケガや体調変化に関することは、看護師の助言も含め家族との情報交換に努めました。
- ・夏祭りや餅つき会などには多くのご家族参加があり、交流を深めることができました。
- ・利用者が体調不良で休んだときには、必ずその日に電話し、利用者やご家族への心遣いに努めました。
- ・制度の改正時・デイ体制の変化時などには事務連絡を配布し、理解と協力を得るようにしました。

新規利用者の獲得と受け入れ

- ・新規利用者の面接・契約、また受け入れへの迅速な対応を心がけ実施しました。
- ・デイサービスの見学や体験利用の実施

デイで実際に過ごし納得してから利用を決められるため事業所・利用者ともに好評でした。体験時は、食事などすべて無料とし、利用時の写真入りカードをプレゼントしました。多くの体験利用者が通所するといううれしい結果となっています。

| 月 | 事業所紹介 見学者 | 体験利用 | 結果 | |
|----|--------------|------|----|-----------------|
| | | | 利用 | 利用しない(理由) |
| 5 | | 1 | 1 | |
| 6 | | 3 | 2 | 1(徘徊激しく安全確保が困難) |
| 8 | | 5 | 5 | |
| 9 | 2 | 1 | 2 | 1(リハビリできるところ希望) |
| 10 | | 6 | 6 | |
| 11 | | 3 | 3 | |

| | | | | |
|----|----|-----|-----|------------------|
| 12 | | 1 | | 1 (施設規則に反する希望あり) |
| 1 | 1 | | | 1 (施設ボラとして活動中) |
| 2 | | 1 | 1 | |
| 計 | 3人 | 21人 | 20人 | 4人 |

*その他に個人での見学、事業所からの一般見学は随時受け入れ案内実施。

(9) ボランティアの受け入れ

- ・定期のボランティアのほかに、不定期にさまざまな芸能ボランティアを受け入れました。利用者にとっては、新鮮な気持ちで楽しみ好評でした。

| 開催 | ボランティア | 実施時期 | 開催数 |
|-------|---------|--------|-----|
| デイにて | 書道の時間 | 4月～3月 | 66回 |
| | 花(華道) | 9月～3月 | 30回 |
| | 茶道 | 6月～3月 | 4回 |
| | ハーモニカ | 10月～3月 | 6回 |
| | 歌謡ショー | 9月～12月 | 2回 |
| | 和太鼓 | 5月～9月 | 2回 |
| | 日本舞踊 | 9月 | 1回 |
| | 踊り | 9月 | 1回 |
| | コーラス | 12月 | 1回 |
| | 琴アンサンブル | 9月 | 1回 |
| 特養へ参加 | 習字クラブ | 4月～3月 | 39回 |
| | 音楽クラブ | 8月～3月 | 6回 |
| | 落語 | 11月～3月 | 2回 |
| | 演芸 | 1月 | 1回 |

(10) 委員会活動

- ・送迎の関係でなかなか出席できませんでしたが、安全委員会、広報委員会、食事委員会、入浴委員会はセクションは違っても、同じ施設内で共通の認識を持ち、意見交換をしたり目標を掲げることが必要なため、できる範囲で参加しました。

ヘルパーステーションむさしの

ヘルパー事業も3年目を迎えました。常に事業の拡大を念頭に努力しましたが、地域性もあり需要も伸びない上に、登録ヘルパーも他の事業所と兼務の場合がほとんどで、稼働日や時間が最初から限られているため十分な確保や活用にいたりませんでした。

昨年度末には、デイサービスとの兼務の職員も仕事量が限られるようになり、やりくりが難しくなったため、やむを得ず事業縮小を決断せざるを得ませんでした。3月から4月にかけて利用者を他の事業所に委ねて引継ぎを行い、その結果利用者の希望で1件のみが残りました。

今年度のサービス利用状況は、4月のみ2件(男性1名:生活援助3:月2回、女性1名:生活援助4、月2回)。5月からは1件(女性1名80歳:生活援助4:月2回)のみ継続しました。サービス内容は主に掃除等の家事援助ですが、介護予防と自立支援を常に考慮し、利用者と共に進めるようにしました。合間に行う談話も利用者にとって気分転換になるため、努めて明るい話題で楽しく過ごすようにしました。

平成19年2月から、利用者の体調変化があり掃除などの家事が困難となったため、ケアマネと相談、時間を短縮し本人はできることだけ手伝い、後はヘルパーが実施するように変更しました。

サービス提供の年間延べ日数は30日。月平均2,5日の稼働でした。

たった1件ですが、むさしのを選んでくれた利用者の気持ちを大切に、今後も質の高いサービスが提供できるように努めていきます。

支援センターむさしの(在宅介護支援センター)

サービスを開始して4年が経ち、順調にサービスを提供できる体制が整ってきました。開設当初より開かれた施設となるよう、活動を展開してまいりましたが、本年度は在宅がより地域に密着できるよう活動を展開しました。

そのような中、今年度は4つの事業を行ってきました。

1 相談件数

在宅に関する様々な相談に応じ、電話や面接訪問などでその解決を目指しました。

月別

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 |
|----|----|----|----|---|----|---|----|----|----|---|---|---|------|
| 相談 | 13 | 11 | 15 | 8 | 13 | 5 | 5 | 6 | 11 | 6 | 7 | 6 | 106件 |

2 実態把握

市役所からの委託を受け市内の高齢者の実情および食の実態把握を行いました。

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|---|------|
| 件数 | 11 | 15 | 18 | 10 | 14 | 12 | 17 | 12 | 12 | 15 | 18 | 0 | 154件 |

3 家族介護者教室の開催

地域住民を対象に介護に関する教室などを開催し、高齢者と共に生きる地域作りの一翼を担いました。在宅で介護される方にとって要介護者を残しての外出が困難という、事情を考慮し、今年度は地域の集会

所を開催場所とし、教室を開催しました。

内容としては「シニア体験キット」を用いて、高齢者の疑似体験をしてもらいました。その中で、高齢者の立ち上がり重点をおき、人間の立ち上がりのメカニズムを知ることによってどのように介助したら良いのか体験してもらいました。その体験を在宅で活かしていく方法を講義しました。

| | | | | | | | |
|------|--------|--------|-------|---------|--------|---------|-----|
| 開催場所 | 南畑 | 山室 | 渡戸3丁目 | 勝瀬 | 渡戸東 | アイムふじみ野 | 合計 |
| 開催日 | 7 / 14 | 8 / 25 | 9 / 8 | 10 / 13 | 12 / 8 | 1 / 26 | 6回 |
| 参加人数 | 6 | 0 | 3 | 8 | 5 | 5 | 27名 |

4 安心ネットワーク会議の開催

地域内組織と連携を図ることにより、地域で暮らす高齢者やその家族に対し、介護や権利擁護などに関する問題発生の予防と早期発見に努めます。

本年度は南畑地区社会福祉協議会の会議に福祉委員として参加し、地域住民が知りたいとする介護についての研修を行いました。

| | |
|------|--------|
| 開催日時 | 3 / 14 |
| 開催場所 | 南畑公民館 |

5 『ふれあいむさしの』の開催

地域に開かれた施設創りのひとつとして、地域住民への介護保険の説明や介護予防体操の体験等開催しました。開催場所を施設内とすることで施設をより身近に感じてもらい、施設内見学も行いました。南畑地区の各町会を順に開催予定。

| | | |
|---------|------------|--------|
| 開催日時 | 開催場所 | 対象 |
| 11 / 19 | 支援センターむさしの | 南畑第5町会 |

その他に地域のサロンへ参加し、民生委員や地域住民との交流を深め情報交換を行いました。また、南畑地区社会福祉協議会の行事や活動に参加し、地域へより近づいた活動ができました。

支援センターむさしの（居宅介護支援事業所）

4月の法改正により、居宅介護支援専門員の担当人数に制限が出来たことで、各事業所において新規利用者を断るケースが増えるという事態が発生しました。利用者やその家族がケアプラン作成を受けてくれる事業者を探すのに苦労している状況の中、むさしんでは新規依頼を断らないように対応に最大限の努力をすると共に、各支援専門員の業務量が増えたことにより、サービスの質が低下することのないように努めました。

本年度の目標としては、各事業所との連絡調整の発展を上げておりましたが、新規利用者の対応に追われた結果、会議としての開催には至りませんでした。毎月の事業者訪問を実施することで、他事業者との交流の場を持つことが増えました。また自主参加事業の東入間地区のケアマネの集い（3ヶ月毎の開催）への参加を徹底し、支援専門員同士の交流を深めると共に、各制度への共通理解や情報交換に努めました。反省点としては上記を書類として作成できなかったこととなりますが、来年度への課題として取り組んでいきたいと思っております。

1 ケアプラン数

月別

| 月 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 1 | 2 | 3 | 合計 |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|------|
| 件数 | 32 | 37 | 38 | 43 | 45 | 45 | 44 | 48 | 48 | 49 | 55 | 58 | 542件 |

(2)要介護別（平成19年3月末日付）

| 要介護度 | 要支援 | 要介護1 | 要介護2 | 要介護3 | 要介護4 | 要介護5 | 合計 |
|------|-----|------|------|------|------|------|----|
| 男 | 3 | 5 | 5 | 10 | 2 | 2 | 27 |
| 女 | 1 | 8 | 9 | 6 | 4 | 3 | 31 |
| 合計 | 4 | 13 | 14 | 16 | 6 | 5 | 58 |

栄養課

1 基本方針

- (1) 新調理システム（真空調理法、クックチル、クックサーブ）の利点を生かし、やわらかく、おいしく安全な食事提供に努力しました。
 - (2) 利用者の個別対応については、引き続き行っていきたいと思っております。嗜好調査や、毎日の残菜調査も実施しました。又嗜好調査については、利用者への聞き取りが困難になってきているため今後は、利用者への聞き取りを1回ワーカー職員の意見交換を1回行っていきたいと考えています。
 - (3) 盛り付け、味については、皆様に喜んでいただけるよう更に努力します。
- 2 調理作業のマニュアル化を行い、作業効率のアップに努めました。
 - 3 献立作成については、嗜好調査、残菜調査をもとに季節感、行事等を取り込んだバランスのよい献立作成に努め、よりよい食事作りに努力しました。
 - 4 栄養課職員に対して、そのつど食中毒の予防、ウイルス感染の予防の対策について研修を行いました。
 - 5 行事食については、施設の年間行事、ユニット行事の起案に基づいて行いました。残念ながらパイキング食は昨年度1回しか行うことができませんでした。今後の課題にしてより努力していきます
 - 6 栄養ケアマネジメントについては、目標を達成することができませんでした。19年度は充実させて

いきます。

7 配食について

現在契約者数 5 名 1 週間の配食数・・・71 食です

内訳

1 週間の配食数

21 食 1 名

20 食 1 名

18 食 1 名

10 食 1 名

2 食 1 名

以上です